

活動状況調査票 I

学校経営における健康づくりについて

1 学校経営方針と健康づくり

(1) 学校の教育目標及び教育計画への健康づくりの位置づけ

本校は、明治6年開校の「徹明義校（後に徹明小学校）」と、昭和13年開校の「木之本尋常小学校（後に木之本小学校）」が平成29年に統合されて新設立し、本年度、開校6年目となった。岐阜の玄関口である岐阜駅に面した岐阜市の中心部に位置し、特別支援学級を含め15学級、児童数315名（令和4年5月現在）の中規模校である。

統合以前より両校とも健康教育や歯科指導に力を入れて取り組み、市や県の歯科保健優良学校としてたびたび表彰されてきた。また、統合されて徹明さくら小学校になってからもそうした伝統を継承し、岐阜市環境衛生活動優良校や岐阜県学校歯科保健優良校をはじめとして、健康や安全に関する数々の表彰を受けている。

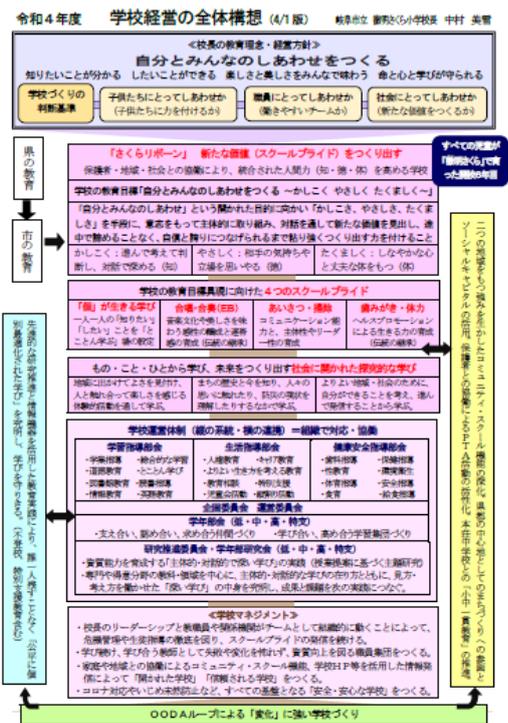
統合により開校した本校は二つの地域をもつが、コミュニティ・スクールという枠組みの中で二つの地域が融合し、二つの地域が学校の教育活動を積極的に支援してくださっている。また、保護者もPTAを中心に、学校と地域とが連携した行事に進んで参加したりプール掃除等のボランティア活動に多数参加したりするなど学校の活動に協力的である。

そうした本校は、令和3年度より、学校の教育目標を

自分とみんなのしあわせをつくる ～かしこく やさしく たくましく～ とした。

目標に掲げた「しあわせ」とは、心身や社会環境が良好な状態であるウェルビーイングの意味を含むものであり、自分のみならず学校の仲間、家庭、地域、社会という「みんな」の「しあわせ」をつくる主体者として児童自身が行動する力の育成を目指す目標である。特に、開校6年目になる本年度は、全校が本校に入学し本校で過ごした児童となる記念すべき年であり、「さくらリボンプロジェクト」と銘打ち、子供自身が「新たな価値（スクールプライド）」をつくり出す年にすべく取り組んでいる。

その「スクールプライド」の具体的な取組場面は、「個が生きる学び」「合奏・合唱（エンジョイバンド）」「あいさつ・掃除」「歯みがき・体力」の4つである。統合前の両校で取り組んできた歯科保健・口腔衛生を健康教育の重点としたヘルスプロモーションによる生きる力の育成と、心身ともに「しあわせ」な学校づくりをテーマに、学校、児童、保護者、地域が協働して取り組んでいる。



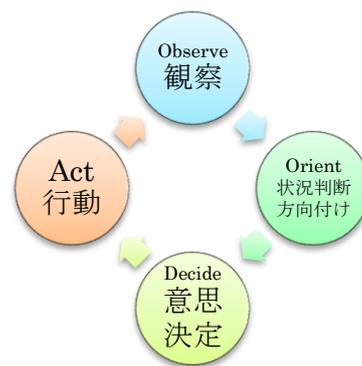
(2) 健康づくりをよりよく実践するための配慮事項

児童が心身ともに健康でしあわせに生活するには、児童自身にたくましく生き抜く力を育むとともに、その土台となる安全・安心な学校をつくる必要がある。

学校の教育目標を受け、健康教育の目標を「自分の体についての認識を深め、健全でたくましい体づくりをする子の育成」として健康教育全体計画を作成している。特に「ヘルスプロモーションによる生きる力の育成を目指した歯科指導」を重点に取り組んでいるため、歯科保健指導全体計画や歯科保健指導年間計画も作成している。（「特徴的な活動①」）

安全・安心な学校づくりのためには、児童の健康や安全・安心を脅かす危機の未然防止や早期対応が重要である。災害や事故だけでなく、いじめや不登校、児童虐待やヤングケアラー、SNSによるネットトラブルなど、児童の健康や安全を脅かす危機は多岐にわたっている。そうした「外からの脅威」と「内なる危機」への対応や未然防止の体制づくりも健康づくりの基盤となると考え、不断の検証を重ねながら実践を続けている。（「特徴的な活動②」）

文字通り予測不可能な未来を生み出した新型コロナウイルス感染症は、健康づくりをよりよく実践するうえで、避けて通れない事項である。刻々と変化する感染状況に積極的に対応するため、本校では、「OODAループ」の手法で変化に強い体制を目指した。例えば、校内児童やその家族に感染が広がりそうな予兆があれば、県や市の指示を待たずして活動を縮小・停止する。歯みがきも「今週は、学校では行わない。」と決める。逆に、感染状況が落ち着いてきたタイミングで修学旅行に出かけたり、「青空歯みがき」を毎日実施したりするというように、刻々と変化する状況を見極めて臨機応変に対応し、「できるときに」「できることを」「できる方法で」行うことを大切にしてきた。



O O D A ループ

しかし、3年近くに及ぶコロナ禍が、学校教育や子供たちの成長に及ぼす影響は大きい。ただ、その影響は、ネガティブな影響ばかりではない。新型コロナ感染症によって、自分の健康を自分で守っていくという意識が児童自身に芽生え、日々の自己健康チェックや手洗い、換気など、自分でできることを自分でしていこうという行動力が高まった。また、児童のコロナ感染をきっかけに、児童会が中心となり地域と協働した「シトラスリボンプロジェクト」を行うなど、心の健康や安心な環境づくりのために児童自らが動き出した活動もあった。こうしたコロナ禍において、感染症対策に配慮しながらも学校の教育目標の具現のために工夫した健康教育の実践については、後述の調査票Ⅱの中で具体的に述べる。

このように、本校の健康づくりでは、歯科指導と安全・安心な教育環境づくりに重点を置いているが、健康教育の各分野が有機的に関わり合うことで全体を高めようと意図している。また、保護者や地域、校医の先生方をはじめとする関係機関や外部人材とも協働しながら、児童自身が力を付けるとともに、よりよい教育環境づくりが推進できるよう取組を推進している。

2 健康づくりに関する計画

(1) 学校保健計画（教育・管理）作成に当たっての配慮事項

学校保健計画では、教育の側面と管理の側面との取組が、年間を通して統合されて機能するよう、以下のことに留意して計画を作成している。

- ① 様々な情報を分析し、児童の実態や学校課題に即した活動を計画する。
- ② 学校の教育目標・教育方針に則り、歯科保健・口腔衛生に関する内容に重点を置き、年間を通して活動できるよう配慮する。
- ③ 時期や学校行事、地域行事、その他の教育活動との関連を考慮し、最も適切な時期に行うことができるようにする。
- ④ 健康委員会や環境委員会などの児童会活動を中心に、児童が校内外に働きかける場を位置付ける。
- ⑤ 学校医・学校歯科医・学校薬剤師・保健所担当保健師・P T A役員にも積極的に助言を求めたうえで作成する。
- ⑥ 全教職員が共通理解・共通行動ができるよう、適切な時期に研修を位置付ける。
- ⑦ 年度当初の計画には予定していなかった内容についても、必要であると判断したこと、児童からやってみたいと声が上がったことなどについて、前例がないために行わないのではなく、「できる方法」を工夫して積極的に取り組む。
- ⑧ コロナ禍でも活動やコミュニケーションが滞ることがないように、G I G Aスクールによって配備されたタブレット端末や、教育D Xとして導入された各種ソフト・アプリを活用する。

特に⑧に挙げたI C Tの活用により、欠席・遅刻等の家庭からの連絡や、家庭での健康チェックを担当や養護教諭がデジタル連絡帳でチェックしたり、配信機能を使って、学校からのたよりや動画をデジタルで家庭に届けたりといったことも可能になった。オンラインのアプリで双方向のコミュニケーションも可能なため、フィジカルなコミュニケーションが難しいコロナ禍において、そのメリットを十分に生かすよう配慮している。

(2) 学校保健計画を実践するための具体的手立て

年間の見通しのなかで、各活動における児童に付けたい力との関連を明らかにし、養護教諭・保健主事を中心とした健康安全指導部でねらいや手立てを検討した内容を全教職員に職員会で提案して実施している。この計画は前年度末から次年度に向けて何度も検討を重ねてきたものであるが、前項でも述べたように、状況を判断して適宜必要な指導を加えたり変更したりした内容を職員内のファイル共有アプリで共有するなど、柔軟に対応できるよう考えている。

重点を置いている歯科保健・口腔衛生については、学級活動や委員会を中心とした児童会の常時活動に加え、5年生の総合的な学習の時間にも「丈夫な歯、健康なくらし」という単元で学んでいる。その単元では、自身の歯や口腔の状態を知って課題意識をもち、課題追

究のために調べて実践するだけでなく、学んだことのなかで他の人にも広めたいことを家族や近隣保育所の幼児、地域の方々に主体的に発信する過程を位置付けるなど、社会に開かれた教育課程になるよう工夫している。

年度当初に全教職員で行うエピペン研修会や、プール開きの前に行う救急救命講習・校内プール管理者講習などは、適切な時期を行うことを大切にされた教員研修の例である。研修会を行う際は、より実態に即した危機対応の力が身に付くよう、ロールプレイを取り入れたり、関係機関や学校医・学校薬剤師を講師に招き、専門的な話を聞いて理解を深めたりしている。

また、子供たちが万が一水難事故に遭ったときに必要な水慣れや、ある程度の泳力は小学校低学年のうちこそ培うべきだという判断から、コロナ感染防止により2年間実施してこなかった学校プールでの水泳指導を、本年度は行った。

実施に当たっては、事前に学校医から、コロナ禍に感染対策を講じながら実施する水泳指導の在り方について、養護教諭と体育主任が指導をいただいた。約3年間放置されていたプールをきれいにするには、児童と教職員の力だけでは難しいため、PTA役員に相談し、保護者からボランティアを募って手伝っていただくことにした。保護者ボランティアの中には、午前も午後もお越しくくださった方もいて、「子供と共に気持ちのよい汗を流すことができました。」というご感想までいただいた。

さらに、プール掃除後には学校薬剤師に水質等を含めたプールの衛生管理について教職員に研修をしていただいたり、消防署の方に救急救命講習をしていただいたりした。

こうした例のように、計画された保健計画を実施するために、児童を中心に、適切な時期を考慮し、校内の健康安全指導部、学校医や学校薬剤師、保護者、地域、関係諸機関がチームとして各々の役割を果たしつつ、協力し合って推進するよう心がけている。



4月に行ったエピペン研修の様子



学校医による水泳に関する指導



保護者ボランティアとのプール掃除



消防署の指導による救急救命訓練

(3) 学校安全計画（教育・管理）作成に当たっての配慮事項

学校安全計画では、教育の側面と管理の側面との取組が、年間を通して統合されて機能するよう、以下のことに留意して計画を作成している。

- ① 指導の側面には、各教科や各領域で学ぶけがの防止や交通安全、防犯教育、防災教育等に加え、岐阜市が重点を置いて取り組んでいるいじめの未然防止を中心とした「心の安全」について、年間を通して位置付ける。
- ② 各教科・各領域で学ぶ内容を行事や活動に生かしたり、特別の教科道徳で学ぶ「生命の尊さ」と結びつけたりしながら、自他の命を大切にすることを養うことができるようにする。
- ③ 全校児童が授業でも家庭でも当たり前にするようになったタブレット端末の利用もふまえ、SNSの利用による被害防止や適切な使い方を早い段階から指導したり、高学年に性被害の未然防止について指導したりするなど、児童の「今」の実態に合った内容に更新する。
- ④ 命を守る訓練を定期的に位置付け、その内容を地震発生や台風接近、不審者対応等にしたり、発生時間も授業中や休み時間、掃除の時間にしたりするなど、様々な場面を想定してから危機から身を守る指導を行う。
- ⑤ 管理の側面においては、通学路の安全に関して二つの地域の「見守り隊」や「こども110番の家」、PTA地域生活委員会、保護者による「見守り活動ボランティア」など、地域や保護者との連携を図ることを重点とする。
- ⑥ 日常的な点検や毎月行う校内の安全点検だけでなく、長期休業中を利用した職員作業を位置付け、多くの目で設備や備品の予見される危険を見直す。

(4) 学校安全計画を実践するための具体的手立て

安全に関する指導については、授業や行事の時間だけでなく、朝の会や帰りの会、休み時間や掃除の時間など、学校生活のあらゆる場面で「自他の生命を大切にするために、自分で判断し行動できる力の育成」を目指して同一歩調で指導できるよう、全教職員が共通理解をしている。

また、命や安全を脅かす様々な危機から子供を守りきるため、誰もが早期対応ができるよう各種対応マニュアルやフロー図を用意している。こうしたマニュアルやフロー図を作成した時点で安心してしまい、実際の危機発生時に機能しないといた事態に陥らないよう、職員室に掲示をしたり、どの職員もすぐ取り出せるファイルで常置したりしている。さらに、教職員が校務用タブレット端末を貸与されたことに伴い、タブレット内にも保存して常にすべての教職員がすぐ見ることができるようにしている。

交通安全、防災教育、防犯教育では、地域の警察署、外部団体、地域の防災士、県警など、様々な方に講師を依頼し、より専門的な話を聞いたり指導を受けたりできる場を積極的に設けている。

「心の安全」に関しては、岐阜市が令和2年度より独自に配置している「いじめ対策監」の教諭が中心となり、定期的に行う「いじめアンケート」「心のアンケート」、毎月の「いじめを見逃さない日」、7月に行う「いじめについて考える日」など年間を通して取り組み、心の安全を脅かすいじめの早期発見、早期解決、未然防止に全教職員、全児童で徹する。

(5) 食に関する指導の計画（教育・管理）作成に当たっての配慮事項

安全・安心でおいしい給食の提供は学校の責任であると同時に、学校給食は、健康の保持増進や、食によって生活を豊かにしようとする心を養う食育の大きな役割を担っている。そうした学校給食は児童の食生活の一部であり、食の大きな部分を占める家庭との連携が重要である。そこで、家庭との連携を密にとりながら、栄養教諭や給食主任を中心に、以下のようなことを配慮して計画を策定する。

- ① 各教科・各領域等で行う指導を時期や学校保健計画・学校安全計画とリンクさせつつ、食育推進委員会での協議を踏まえて策定する。
- ② 「朝食アンケート」の結果に見られる「朝食は食べている児童がほとんどだが、その食事内容が不十分な児童も少なくない。」という本校の実態や、小食、偏食、拒食傾向、食物アレルギー等の個別の支援が必要な児童への配慮をふまえたものにする。
- ③ 食育の6つの視点（食の重要性・心身の健康・食品を選択する能力・感謝の心・社会性・食文化）に加え、本校が重点を置いている「丈夫な歯のために噛むこと」との関連を明らかにして各学年の目標や指導内容を整理する。
- ④ 安全・安心に大きくかかわる食物アレルギーのある児童への管理・対応が適切に行うことができるよう、食物アレルギーの調査実施、保護者との面談、給食や宿泊を伴う行事（野外学習・修学旅行等）での対応の決定などを確実に位置付ける。
- ⑤ コロナ禍において感染リスクを下げる指導（黙食・手洗い・手指毒等）を徹底する。

(6) 食に関する指導の計画を実践するための具体的手立て

本来、学校生活のなかで楽しく仲間と食事を囲む給食の時間は、長引くコロナ禍によって「黙食」という、これまでとは全く違う光景に変貌した。家庭科の授業でも調理実習を行うことが困難な状況が続いている。黙食という状況でも、少しでも食に興味をもち楽しんでもらおうと、一斉放送を使って給食委員会の児童が「給食ひとくち話」をしたり、栄養教諭が献立や食材について話したりすることを続けている。

また、市や県の食に関する事業を高学年の家庭科とリンクさせて取り組むことで、家庭でもこの学びが活かせるようにしている。例えば、岐阜市が5年生に向けて発行している「太郎さんの食中毒事件簿」では、家庭科の調理実習や給食前の手洗いだけでなく、家庭での食品の衛生的な保管にも目を向けるよう指導している。

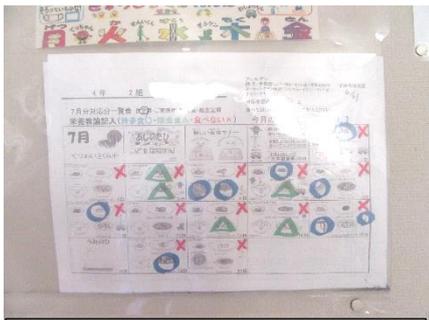


岐阜県が推進している6年生の「家庭の食育マイスター」では、夏休み前に6年生全員を各家庭の食育マイスターとして校長から委嘱し、栄養教諭から食に関する知識を確かめたり、児童一人一人に「食育マイスター」として家庭で実践することを考えさせたりしたうえで、夏休みに家族のために朝食や味噌汁をつくるというミッションを課している。児童が学校の家庭科等で学んだことを家庭で実践し、課題となっている食事内容の充実などを家族に主体的に働きかけることを目標にしている。さらに、食育の推進には家庭との連携が不可欠のため、給食だよりや食育だよりを家庭に配付して家庭への啓発を継続している。



食物アレルギーに関して、本年度本校には、エピペンが処方されている児童2名、アレルギー対応が必要な児童17名、その他配慮が必要な児童12名が在籍している。年度当初の保護者との確認や毎月の確認書は計画にある通りだが、アレルギー対応は、日々の取組が大切である。除去食、持参食など、それぞれの状況に応じた対応について、管理職、学級担任、栄養教諭、調理員が誤食のないよう、毎食、複数職員による複数回の確認と児童本人への確認を行っている。また、アレルギー対応を書き込んだ献立表を当該学級に掲示することにより、当該児童や担任だけでなく、給食当番を含め学級の仲間も意識してアレルギー対応の確認をしている。

食物アレルギー対応が必要な児童のなかには、飛沫の接触だけでも重篤な症状を引き起こす児童もいるため、持参食のための冷蔵庫や電子レンジを3か所に分け食材ごとに専用化したり、学級の児童が給食後に牛乳パックを児童が洗う場所やその動線を食物アレルギーのある児童と重ならないように管理したりしている。



教室に掲示された対應用献立表



食材ごとの冷蔵庫とレンジ



手洗い場や動線の分離

3 健康づくりの推進体制

(1) 推進組織の状況

健康づくりを推進する校内の組織には大きく次の3つの部会（委員会）があり、それぞれの担当する内容についてPDCAサイクルで取り組んでいる。各部会からの企画は、運営委員会に提案され、そこで検討・修正された案が職員会で周知・徹底される。職員会で共有された内容は、学年会でより学年の実態に合った方法が考慮されて実践される。

- ① 健康安全指導部（保健主事、養護教諭、体育主任、給食主任、栄養教諭、環境美化教育担当、校務主任、安全担当を含む）

保健、交通安全、防災、食、運動、環境衛生の内容を中心に企画・推進・見届け

- ② 学習指導部（学習指導部長、教務主任、学力向上推進教師、総合主任、道徳教育推進教師、人権教育担当、キャリア教育担当、情報教育主任含む）

教員研修、自他の生命や人権を尊重する教育、情報モラル教育等について企画・推進・見届け

- ③ 生活指導部（生徒指導主事、特別活動主任、地域活動支援員、教育相談コーディネーター、特別支援コーディネーター、いじめ対策監含む）

防犯、通学路の安全、心の安全（いじめ・不登校の未然防止）、教育相談等を中心に企画・推進・見届け

これらの定期的な「指導部会⇒運営委員会⇒職員会」の流れだけでなく、「不登校未然防止・対策委員会」「いじめ防止等対策推進会議」など即時性を求められる会議や、県の子ども相談所や市の「子ども・若者総合支援センター エールぎふ」などが適時加わって行うケース会議などは、個に応じた直接的な対応を推進する組織である。

そうした数々の諸会議のなかでも、学校保健安全委員会・食育推進委員会は、学校、学校医・学校歯科医・学校薬剤師、保健師、保護者が共に子供の健康づくりについて検討する重要な組織であり、年間3回をめぐり、保健主事が中心となって進めている。

（2）健康相談・保健指導の活動状況

保護者からの健康相談については、健康診断事前調査、就学前健康診断、野外学習や修学旅行の事前健康調査、水泳や持久走などの事前健康調査などの折に実施している。各健康診断後の保護者への治療勧告や受診済み報告書提出時に相談する場合もある。

また、色覚の検査は1年生希望者に実施し、眼科の学校医の指導のもと、保護者に直接結果を報告している。

児童からの健康相談は、保健室来室時が多い。来室記録を活用して児童自身が自分の健康状態や生活を見つめ直し、自己の健康課題を解決するためにどうすればよいかを考え実践できるような支援をしている。体調不良を訴える児童のなかには、メンタルヘルスに関する問題も少なくない。集団への不適応、学業不振、友達関係、家庭環境など、児童の心の健康についても担任と連携を図りながら聞き取り、保護者はもちろんのこと、管理職、教育相談コーディネーター、いじめ対策監、特別支援教育コーディネーター等の職員と情報を共有し、指導・支援の方向を協議し、必要に応じて学校カウンセラーや外部関係機関・医療機関とつないで指導・支援を進めるようにしている。

朝の健康観察では、養護教諭と生徒指導が登校時に玄関でタブレット端末に送信された家庭からの健康チェックをもとに一人一人の表情を観察したり、朝の会で担任と養護教諭が体調を確認したりして、心身の状況のわずかな変化も見逃さないよう努めている。

(3) 学校医、学校歯科医、学校薬剤師の活動状況

		具体的な活動内容	出校回数
学校医	内科	学校保健計画、学校安全計画への助言 内科検診、運動器検診、結核検診 学校保健安全委員会・食育推進委員会への参加 職員健康相談（血圧測定含む） 水泳授業における感染対策に関する相談 採血検査結果事後指導、成長曲線の検討 心電図有所見児の総合判断 就学時健康診断 学校・学級閉鎖に関わる相談 新型コロナ感染症に関わる相談 教職員の PCR 検査結果の判断	9回 電話相談 数十回
	眼科	学校保健計画、学校安全計画への助言 眼科検診 就学時健康診断 学校保健安全委員会・食育推進委員会への参加 流行性眼疾患に関する相談	7回
	耳鼻咽喉科	学校保健計画、学校安全計画への助言 耳鼻科検診 就学時健康診断 検診器具滅菌消毒 学校保健安全委員会・食育推進委員会への参加	7回
学校歯科医		学校保健計画、学校歯科保健指導計画への助言 定期歯科検診と検診後の歯磨き指導 口腔内写真撮影（5・6年生） 検診器具滅菌消毒 ワンタフト・デンタルフロスの使い方指導 歯科保健活動調査票の指導 学校保健委員会・職員研修講師 全国小学生歯みがき大会参加 就学時健康診断 学校保健安全委員会・食育推進委員会への参加 夏休みの家庭への歯磨き啓発動画の作成と指導 （各学年）	18回 電話相談 通信執筆 数回

<p>学校薬剤師</p>	<p>学校保健計画、学校安全計画への助言 定期環境衛生検査の実施及び事後指導 業務委託検査への立会い 給食室環境調査 プール環境調査、プール管理講習会 職員研修講師 学校環境衛生活動優良校実地審査立会い 喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育講師 新型コロナ感染症に関わる環境整備への指導</p>	<p>18回 電話相談 数回</p>	
--------------	---	---------------------------------	--

(4) 校舎内外の環境衛生活動・管理状況

本校が取り組んでいる「4つのスクールプライド」の一つに掃除がある。各掃除場所では、毎日点検表を活用して清掃状況を点検したり、児童環境委員が掃除時間のよい姿を全校放送で紹介したりしている。掃除時間の全校の合言葉は「さしすせそ掃除」としており、「さ…さっと集合、時間いっぱい」「し…静かに、黙々と」「す…すみずみまで」「せ…整理整頓、最後まで」「そ…掃除のあいさつと反省会をしっかりと」という5つを目指す姿として共有している。また「お助け掃除」と称して、児童環境委員が担当学年を決め、掃除時間に下学年の教室に出向き手本となる掃除の姿を示す活動にも取り組んでいる。

日常的な環境衛生点検は、毎日、朝と給食時に、清掃・整頓状況、照度、室温、換気、異臭の有無などを点検項目に挙げて各教室で行っている。「さしすせそ掃除」や日常的な点検活動により、靴箱の縁に靴のかかとをきちんと合わせて入れたり、トイレのスリッパを丁寧にそろえたりする行動が自主的にできるようになっている。

管理面では、毎月15日に行う安全点検とその結果による改善箇所への早急な対応とともに、問題に気付いた教職員（児童）がすぐ声を上げる、すぐ動くことを大切にしている。「割れ窓理論」にもあるように、環境が心や行動に影響を与えることを意識し、全教職員が、美しい環境が美しい心の児童を育むことができるよう取り組んでいる。

(5) 家庭・地域等との連携状況

「徹明さくらコミュニティ・スクール」には、学校運営協議会と支援推進委員会があり、その下部組織として「学習・スポーツ支援部会」「安心・安全部会」「ふるさと絆部会」の3部会が位置付いている。各部会は、地域・PTA・学校のメンバーで組織されている。このコミュニティ・スクール機能が要となり、二つの地域の自治会や関連組織（青少年育成市民会議、体育振興会、見守り隊連絡会等）と学校、保護者やPTA組織（成人教育委員会、地域生活委員会等）と学校とが深く結びついている。学校運営協議会のメンバーには校区にある二つの市立保育園の園長にも加わって幼保小の連携をめざすとともに、2小1中の校長・教頭・教務主任・生徒指導等が3校連携会をもって小中一貫教育を推進している。

さらに、学校ホームページや学校だよりで学校の活動状況をこまめに保護者や地域に情報発信したり、学校保健安全委員会の様子や校医からのアドバイスなどを保健だよりで伝えたりすることに加え、家庭で長期休業中の歯みがき点検表や長期休業後の生活チェック表に取り組むことで、地域や家庭と成果や課題を共有している。

4 学校及び地域学校保健委員会の活動

(1) 目標と計画及び運営状況

【目標】学校保健安全の推進と向上をめざし、心身ともに健全な児童の育成を期するとともに、保護者・地域社会の保健意識を高める、

【構成】学校医、学校歯科医、学校薬剤師、保健センター地域担当保健師、PTA代表、校長、教頭、保健主事、養護教諭、体育主任、栄養教諭

【運営・内容】年3回

- ・学校保健全体計画、学校安全全体計画、歯科保健全体計画、食に関する指導全体計画等の立案・確認・見直し
- ・健康教育の取組
- ・発育状況、各種健診結果、体力テスト結果等の分析と課題
- ・環境衛生の維持・改善、設備点検・改修に関すること
- ・欠席、学級（学校）閉鎖、保健室来室の状況
- ・食育・運動の推進
- ・感染予防対策、熱中症対策等の喫緊の健康課題に関すること 等

(2) 事後の取組状況と地域との連携状況

会議で話題になった事項については、保健主事から職員会や打合せの場で、全教職員に共有している。そのうえで、その後の健康づくり教育に反映している。

例えば、ある回で、コロナ禍やWBG Tが高指数のため、なかなか外で十分な運動ができないという話題が出て、室内で人との距離をとるために座ったまま運動を取り入れてはどうかという助言を校医からいただいた。これを受けた体育主任は、運動場での運動ができない猛暑時での着座のラジオ体操を職員会で提案した。

会の内容については、保健だよりを通して保護者にも伝えている。会の中で、猛暑のため、家庭でも使い続けているエアコンにより自律神経失調症が増えているという校医の話があった。エアコンは、夜通しつけっぱなしにするのではなく、朝起きる1時間前に電源を切ると自律神経の調整がしやすくなるという校医の話も紹介したところ、家庭で実践したという保護者の話を聞いた。

こうした事例も含め、学校運営協議会や管理職が出席する地域の会議、3校連絡会などの様々な場で、地域の中学校や保育園、自治会等とも連携を図っている。

活動状況調査票Ⅱ

特徴的な活動①

ヘルスプロモーションによる生きる力を育む健康教育
～歯と口腔の健康づくりを通して自己管理ができる子を目指して～

1 重点課題と活動のねらい

(1) 課題の把握と設定状況

本校では、伝統的に歯と口の健康について学校、学校歯科医、家庭地域がチームとなり取り組んできた。新型コロナウイルス感染症による環境の変化により、積極的な歯科指導が困難な状況でも、児童は今まで積みあげてきた歯・口の健康に関する知識やブラッシングの実践力を生かし、「どのような状況でも自らの健康を守り、主体的に行動できるようになること」を目指して取り組んでいる。新しい生活様式のもと、ブラッシングの継続を推進してきたが、コロナによる受診控えによる治癒率の低下や、マスク生活による口腔機能の低下、歯肉炎の増加など新たな課題が歯科検診で指摘され、集団だけでなく、個に応じた多様な対応が必要になってきている現状がある。

そこで、コロナ禍での歯科保健活動で身に付けた対応力を児童自身がリフレクションし、いつ起こるか分からない危機やどのような問題が起きた際にも、「よりよく対処できる力」として歯科保健活動の経験が生かせるようにしていくこと、さらに自分から「やってみよう！」と思える意欲を育む健康教育を推進していくこととした。

(2) 活動のねらい

歯と口腔の健康づくりを入口として、自身の健康状態に関心をもち、健康課題を主体的に解決していく力を身に付けていくことで、生涯を通じて健康で幸せな生活を送るための基礎を培う。

2 計画と実践の状況

(1) 全体及び年間指導計画

学校の教育目標は、「自分とみんなのしあわせをつくる」である。学校の教育目標具現に向けた重点活動の柱として、歯科保健活動をおき、ヘルスプロモーションによる生きる力の育成を掲げている。学校保健計画の中には、年間を通して歯科保健に関する内容を位置付いている。歯科保健指導全体計画、歯科保健指導年間計画、学年別歯科保健目標と指導内容一覧表は、実践後に評価修正しているため、児童の発達段階、実態に合った内容になっている。

(2) 組織体制

健康安全指導部会が学校運営組織の一部として、児童の健康安全について推進している。各月の目標や指導内容について、児童の健康や生活の実態に合ったものか、実践可能な活動かを検討し、職員会に提案し、共通理解を図り校内の協力体制を確立していくようにしている。また、研修会に積極的に参加し、内容を全職員に伝達し、教職員の知識の向上に努めている。夏休みには、職員研修で学校歯科医が講演を行い、日常の指導に生かせるようにしている。教職員の歯科指導に対する意識は非常に高く、その前向きな姿が、全校児童の歯みがきに積極的に取り組む姿や、自分を大切にする良い姿につながっている。

また、学校だよりや保健だより、学年通信やPTA広報紙、学校歯科医執筆の通信やホームページなど、様々な機会を通して児童の実態や活動を伝えることを続けることで、保護者や地域の歯科保健に対する関心が高まり、協力体制の強化につながっている。

【月の指導目標】

月	めあて
4・5月	口の中の様子を知ろう。
6・7月	学年に合ったみがき方をしよう。
8月	家族で歯をみがこう。食べたらみがこう。夜寝る前にもみがこう。
9・10月	みがき残しがないように、ていねいに3周みがきをしよう。
11・12月	自分の歯並びに合ったみがき方をしよう。
1・2・3月	すべての歯がきれいにみがけるようにしよう。

学校保健安全委員会



毎年3回開催し、子どもたちの健康問題などを協議している。学校医・学校歯科医・学校薬剤師・校区担当保健師など、健康に関する専門家と保護者と教職員が集まって、子どもの健康について話し合う機会としている。具体的な健康課題の解決に向けて、関係機関との連携や専門性を生かした指導、助言を受けることで、家庭の協力体制をより深めることにつながっている。

活動制限のあるコロナ禍において家庭での実践や協力は不可欠であり大切な教育の場になるととらえ、学校だより、保健だより等を通じて協議事項を伝えることで、家庭での実践に結び付け、常の生活習慣に生かせるようにしている。学校保健安全委員会での指導から学校でなすべきことを明確化し、その内容を伝え理解を求めることによって、家庭と役割分担をしながら学校保健活動を行っていくことを目指している。家庭の実態を把握しながら、日頃から家庭に対する啓発活動を行う等、信頼関係構築に努めている。家庭、地域等の教育力を充実させ、学校と家庭、地域を結ぶ組織として位置付けている。

ほけんだより 令和 4年 7月13日
 岐阜市立東郷小こども歯学校
 ほけんだより No.4

いよいよ夏休みが始まります。
 がんばったみんなの歯と口の健康のよけりをしてください。
 夏休みを通して歯の健康を維持し、元気な夏をすごしましょう。
 歯磨きと歯の健康を大切にしてください。

～いまとこれからの健康を～**早めに受診・治療をお願いします**

歯の健康は毎日の歯磨きと定期的な検診で保ちます。歯の健康を維持するために、歯磨きと定期的な検診を大切にしてください。

R4健康診断の受診率

科目	受診済み (人)	未受診 (人)	受診率 (%)
視力	52	25	68.2%
眼科	50	35	59.0%
耳鼻科	41	59	41.0%
歯科	38	9%	38.9%

6月30日(木)学校保健安全委員会を開催しました。

参加者：学校医、保健師、PTA代表委員、保護者のみなさんに出発いただき、学校の保健の現状についての説明・話し合いを行いました。また、新型コロナウイルスの感染防止、新型コロナ感染症予防対策等について、ご意見をいただきました。

内科、小児科より

- ・喉の痛みが頻りに続いた児童は新型コロナウイルスの感染が疑われ、保健室に搬送されています。このように感染が広がり、手洗いやマスクの着用が重要となります。

耳鼻科、眼科より

- ・喉の痛みが頻りに続いた児童は、耳鼻科による耳鼻咽喉科検査が実施されています。検査の結果、耳鼻科の検査が完了し、手洗いやマスクの着用が重要となります。

歯科、児童科より

- ・歯肉炎の増加が懸念されています。歯肉炎は歯肉の腫れや痛み、歯の出血、口臭、歯垢の付着などがあります。歯肉炎の原因は、歯磨きの不足、歯垢の付着、歯の不正咬合などがあります。
- ・マスク生活による口呼吸の増加が懸念されています。マスク生活による口呼吸の増加は、舌癖の増加、歯肉炎の増加、歯の不正咬合の原因となります。

学校保健安全委員会より

- ・2校での学校保健活動で、グループワークの活動、保健活動を実施しました。大きな成果を挙げました。
- ・本校での学校保健活動が充実するようになりました。タブレット端末の活用についてもご報告させていただきます。

地域保健関係者より

- ・学校保健活動の充実が、児童の健康増進につながっています。学校保健活動の充実が、児童の健康増進につながります。
- ・マスク生活による口呼吸の増加が懸念されています。学校保健活動の充実が、児童の健康増進につながります。

感染症・熱中症予防を継続しながら、今後児童の健康に安全な生活づくりに、保護者の皆様のご協力をお願いいたします。

ほけんだよりにて、コロナ感染症への不安による受診控えや、受診率の低下、歯肉炎の増加、視力の低下、肥満など今起きている課題を伝え、学校医からの助言とともに共有することで家庭と協力しながら改善を図っている。

校内研修

学習の場だけでなく、生活のあらゆる場面で歯と口の健康を大切にすること、全ての教職員が関わりながら組織的に推進していくことを大切にしている。各教職員が歯科保健活動に対する認識を高め、児童に効果的な指導をするために、歯科保健についての正しい知識と的確な指導方法を身に付けるために研修を実施している。

歯科医の講話では、歯肉炎の増加が予防するための日常の歯肉の観察の大切さと、歯みがきのポイントを学習し、給食後の歯みがき指導に生かせるようにした。

【講話内容】

- ・子どもの歯肉炎の段階で、丁寧な歯みがきをすれば改善していく。
- ・歯肉炎は口唇に隠れた下の前歯に多い、毛先は歯の面にぴったり当ててみがく。
- ・低学年は歯ブラシをうまく動かさないなので、肘を固定してみがくようにするとよい。
- ・前歯は縦みがきで間違いではないが、歯肉炎予防のため、3周みがき後の仕上げみがきの時に、歯と歯肉の間の横みがきをする。
- ・マスク生活による口呼吸の児童の増加により、舌癖の児童が増加している。低学年に舌癖の児童が多いことから、舌癖を放置すると歯列不正の原因になるため、舌癖を指摘されたら、かかりつけの歯科医院で相談するとよい。
- ・鼻での呼吸をするためにアレルギー性鼻炎の児童は耳鼻科の治療を受けるようにする。

(3) 活動の実践状況

歯科保健教育

①望ましい歯みがきが日常となる指導（さくら3周みがきの定着）

感染症予防に配慮した歯みがきの実践として、手洗い場での密集やブラッシング時の飛沫を防ぐために、給食後の歯みがきを外で行う「青空歯みがき」に変更し取り組んだ。

学校で毎日行っている「さくら3周みがき」の配慮事項として、口を閉じてみがく、うがいは低い姿勢で行うエチケット歯みがきを実践した。地域の感染状況が落ち着いた時には教室でのエチケットみがきに切り替え、柔軟に対応した。職員全体で日々の感染状況を意識し、今できる最善の方法を選択しながら実践している。同時に給食時マナーについても黙食や手洗いの大切さについて指導することで、家庭での実践につながっている。感染予防と歯科保健の推進、双方の視点で児童の健康を守るために歯科保健活動を継承している。



チャレンジ さくら3周みがきで毎日みがこう!

ポイント

- ▶ 歯の手すり側のみがきし方が、歯肉なので、舌側からスタートします。空手さの手は、空側のみがき時に注意しましょう。
- ▶ 歯の内側のみがきし方が、歯肉なので、2周目は歯肉でしっかりみがきます。
- ▶ 歯の内側のみがきし方が、手で押さえるようにして磨くのがポイントになります。
- ▶ のどに押し出し、歯肉をさすようにみがきます。

1周目	2周目	3周目
外側 右側から スタート 右から左へ 上から下へ	2周目 かみ食わせ 右から左へ 上から下へ	3周目 内側 次は 歯の内側 右から左へ 上から下へ

学校歯科医とともに考えた「さくら3周みがき」を毎日実践している。歯みがきタイムでは児童が模型でみがき方の手本を見せ、歯科指導の場となるようにしている。模型を扱う児童は事前に何度も練習して伝え方の工夫を重ねていく。児童から児童へ伝えることで仲間の頑張りを認め合い、自分も「やってみよう!」といった意欲につながっていく。

② ICTの活用 学校歯科医による歯科指導動画の配信

学校での歯みがき指導が困難な状況の中で、児童が丁寧な歯みがきを継続していくために、学校歯科医とともに動画制作に取り組んだ。児童がいつでもどこでも「やってみよう!」と思える教材とするために、発達段階に合わせることを大切にしたい。その上で、学年の指導目標にそった内容となるように学校歯科医と相談を重ね、学年ごとに作ることにした。動画はタブレット端末で共有することで学級指導や家庭での歯みがきに生かせるようにした。長期休みの前に配信し、歯垢の染め出し・歯みがきカードも同時に配付することで家庭での歯みがきの習慣化や歯と口の健康について家族で学習できるようにした。指導内容は学校で使用するアドバイスカードと同じ内容になっており、学校での学びが家庭でいつでも振り返ることができるようになった。

動画教材は、分かりにくかったところを止めて考える時間をつくれること、何度も繰り返し視聴して理解を深めることができる等、個人のニーズに合わせて学ぶことができる。このコロナ禍を通じて、緊急事態にも臨機応変に対応し、指導を継続していくため方法を

考えることができた。今後は有効的な活用方法についても考えていきたい。

【発達段階に応じた歯みがきの指導目標】

学年	めあて
1年生	王様みがきをしよう
2年生	前歯の外側をみがこう
3年生	前歯の裏側をみがこう
4年生	小臼歯をみがこう
5年生	歯と歯肉の境目をみがこう ワンタフト使用
6年生	すべての歯をきれいにみがこう 歯と歯肉の境目をみがこう ワンタフト使用 フロス使用

【動画の概要】

1年生【第一大臼歯のみがきかた：王様みがきをしよう】



1年生でも楽しく学べるように、「ミュータのうんち」の紙芝居を使用してプラークについて説明した。その後、第一大臼歯の観察をし、生え始めは背が低いのでみがきにくく、むし歯になりやすいことから、王様みがき（口を大きく開けて、頬の横から歯ブラシをいれて優しくみがく方法）を伝えた。

2年生【前歯の外側をきれいにみがこう】



前歯は歯と歯の間がみがけていないこと、横みがきだけでは歯垢が取れないので、縦みがき（3面みがき）をしないとよいことを、自作教材を使って伝えた。さくら3周みがきの確認も行い、前歯の外側は、歯ブラシを縦に動かすことになっているが、最後の仕上げみがきの時は、前歯の歯と歯肉の境目を細かく横に動かしてみがくとみがき残しがなくなることも伝えた。

3年生【前歯の裏側をきれいにみがこう】



前歯の裏側は歯の汚れに気付きにくい。歯鏡と手鏡を使って前歯の裏側を観察することができる。前歯の裏側はくぼんでいるので、汚れがたまりやすく、その汚れをとるために、歯ブラシの毛先とかかどを使い内側も丁寧にみがくように伝えた。

4年生【小臼歯をみがこう】



丸くて小さい小臼歯の場所を確認する。歯みがきの基本は、歯ブラシの「2つの部位」を使ってみがく。生え方や生える場所に応じて、毛先を使い分けて、歯の外側、歯と歯の間・みぞは「つま先」を使う。歯の内側は「かかと」を使ってかき出すことを伝えた。

5年生【歯と歯肉の境目をみがこう】



歯肉の観察のポイントの説明と歯肉炎を予防するためには毎日の歯みがきが大切であることを伝えた。鏡で口の中を見ながら、歯と歯肉の境目にブラシをあてて、軽い力で細かく前後に動かしてみがくとよい。歯科検診で、多くの児童に歯肉炎の指摘があったことを踏まえ、改善の方法と日々のブラッシングの大切さについて伝えた。

6年生【すべての歯をきれいにみがこう】

歯肉や歯にみがき残しのない工夫をし、自己管理することの大切さを伝えた。今まで学んできたことを活用しながら自分の歯と口の健康状態に向き合い、生涯を通じて歯を大切にしていくことを伝えた。小学校での学びを中学校へつなげてもらえるようにした。家庭での実践を終えた児童・保護者のメッセージからも習慣化されたことが伝わってきた。

子どもから 歯医へメッセージ

休み中すべて、しっかりと、1日
2回以上ハミガキができて、最後に
フタットできれいにこまかいところまで、
みがけました。

歯医から 子どもへメッセージ

休み中も、規則正しい生活ができてい
ました。歯みがきは、もはや習慣化されて
いて、声かけの必要がなく、安心しました。

③健康課題解決に着目した個人カルテの作成

歯肉炎が課題である高学年を対象に、歯肉炎改善を目指す目的で個人カルテの作成をした。口腔内写真には歯科医が歯肉炎の場所を明記し、シートをめくると自分の振り返りができるようになっている。一人一人の口腔の状態に合わせたものとなっており、清掃状況が不十分な場所や歯並びと歯肉炎との関係がわかり個人の多様な課題解決に向けたものとなっている。このカルテを見た児童は「歯肉炎になっていたことに驚いた。これから歯みがきで改善していきたい。」と、自分の口腔を客観的に見る資料となり、歯みがきの意欲につながった。カルテ配付時には歯科医の願いを伝え、自分の課題として受け止められるようにした。

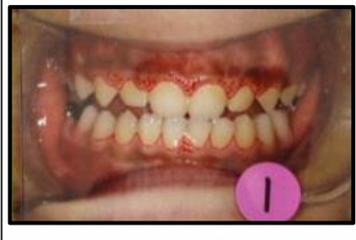
【学校歯科医の願い】

- ①みなさんの口の中の写真を見て、下の歯肉が腫れている人が多くいました。下の歯肉を意識してみがきましょう。前歯というのは上2本下2本のことでありません。上6本下6本です。前歯の歯肉を意識してみがきましょう。
- ②自分の歯肉の写真を見てどう思いましたか。改めて見ると、歯肉が赤く丸く腫れているのが分かりますね。染め出しをすると、赤く染まった部分と、歯肉が赤く腫れている部分が同じような場所にあることが分かると思います。みがき残しが歯肉炎の原因になっているからです。1か所20回みがけるといいです。それを続けることで歯肉炎はよくなります。今度、みなさんの歯肉の状態を見せてもらうのが楽しみです。

**歯肉が観察でき
みがき残しのない歯みがきを工夫しよう**

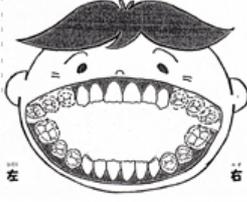
歯肉炎の4つのポイント		歯肉炎がある	歯肉炎がない
色	赤いピンク色	赤い炎症色をしている	正常な歯肉色
形	歯と歯の間にしっかりと入り込んで 三角形に見える	丸く腫みをもってふくらんでいる	
硬さ	引き締まり硬い	プヨプヨしている	
出血	ない	ある	

・透明シートを外した状態にします。自分の口の中を見て歯肉炎の場所がわかりますか？
・丁寧に透明シートをのせて、赤い点が密集しているところと、自分の口の中を見て歯肉炎だと思ったところが一致か、確かめてみましょう。



あなたの
歯肉。

☆染め出しをして、こく赤くなったところに色をぬろう。赤くなった所と歯肉炎の部分と同じ場所が確かめてみよう。



歯肉の観察をして分かったことや、これから気をつけたいことを書こう。

学校歯科医の先生が児童の口腔写真を
撮影している様子

撮影した口腔写真には、クリアシートを重ね歯肉炎の個所を歯科医がマーカーで示し一人一人の状態に合わせた。自分で考えて活用できる教材となっている。児童は、「あまり強く歯肉にあてずにブラシをあてる。普段の歯みがきだけでは歯の間の歯垢はとれないので、フロスを使いたい。」とこれから気をつけることを書き留めた。

④個別指導

児童の発達段階、歯・口の健康状態に応じて、歯科検診での指摘事項をその場で個別指導につなげ児童の日常へ生かしていくためにチームとして効果的な指導を推進している。今の自分に目を向けるために歯科検診を、課題発見、課題解決型学習の場とする取組である。歯科医は検診結果を踏まえて児童の歯垢の付着部位の指摘、それを受けて養護教諭がアドバイスカードに歯垢の付着部位を記入する。アドバイスカード記された付着部位に沿って、歯科衛生士がブラッシング指導を行う。最後に児童がアドバイスカードに学んだことを記入する。みがき残しを児童自らの課題として捉え、解決のために工夫して実践できるように、それぞれの立場から支援していくことを大切にしている。

【歯科検診の進め方】



学校歯科医

歯科衛生士

チームとして
関わる



課題発見
みがき残しの確認
自分の歯・歯並び・歯肉
の状態について知る。

実践・習慣化
歯みがきの重要性を理解し、うまく
みがけた体験から、毎日の生活リズム
の中に、自ら意欲をもってきちん
とみがく習慣を形成していく。

養護教諭



課題解決
自分の状態に合った歯ブラシの
部位とみがき方の工夫と発見。
みがく理由の探求と理解へつな
ぐ。

はいしゅ 歯医者さんのアドバイス

歯の汚れがひどい部分と歯肉炎になっている部分には歯マークがあります。
みがき方のアドバイスをきいて、ヒカヒカの歯と歯肉にしましょう。

濃赤は乳酸菌、灰色は水久歯です。

☆アドバイスを聞いたことや、これからどんな
ことに気をつけたらいいかを書きましょう。
前歯はたてて横両方
でみがくこと！
(歯と歯肉のさかい辺りは横で、
歯全体はたてでみがく)

課題解決の過程で学校歯科医・歯科
衛生士に励まされながら、自分の目標
をつくることで、「やってみよう！」
というやる気につながり、歯みがき実
践への意欲を生み出す。歯科検診を通
して、自分のこととして主体的に考
え、工夫し、どのような変化があつて
も対応できる力を培っていきけるよう
に位置付けている。

検診前後には歯科医執筆の8020通信にて、家庭へも情報を発信している。

歯磨きくわが小学校 令和4年度 7月号

8020通信

1ねんせいのみなさんへ

1ねんせいのみなさん、元気な歯を大切にしようね。歯の健康は、歯磨きで守るんだよ。

歯磨きくわが小学校の先生からのお知らせです。7月1日よりお返しが完了しました。

歯磨きくわが小学校の先生からのお知らせです。7月1日よりお返しが完了しました。

6月から給食後の歯みがきタイムがはじまります。

歯磨きくわが小学校の先生からのお知らせです。7月1日よりお返しが完了しました。

学校歯科健康診断がはじまりました。

学校での健康診断と歯科検診は別々のことで違い... 学校での健康診断は「健康
診断」のスクリーニング検査です。健康診断ではありません。学校の健康診断の結果が
良かった場合は、歯磨きくわが小学校の先生からのお知らせです。7月1日よりお返しが完了
しました。

また「歯」を大切にしようね。歯磨きくわが小学校の先生からのお知らせです。7月1日よりお返しが完了
しました。

学校歯科健康診断での用語を紹介します

<用語を確認すると、検診結果を見たときに自分の歯と口の健康状態がよくわかります>

【歯】
G0(歯) 歯肉が赤くやがれていたり、歯肉が腫れている状態です。正しいブラッシングを行うことで治ります。

【歯肉】
歯肉が腫れていたり、歯肉が赤くやがれている状態です。歯肉が腫れている状態です。歯肉が赤くやがれている状態です。歯肉が腫れている状態です。

【歯垢】
歯垢は歯の表面に付着した歯垢です。歯垢は歯の表面に付着した歯垢です。歯垢は歯の表面に付着した歯垢です。

【歯肉炎】
歯肉炎は歯肉の炎症です。歯肉炎は歯肉の炎症です。歯肉炎は歯肉の炎症です。

【歯肉腫】
歯肉腫は歯肉の腫れです。歯肉腫は歯肉の腫れです。歯肉腫は歯肉の腫れです。

【歯肉出血】
歯肉出血は歯肉からの出血です。歯肉出血は歯肉からの出血です。歯肉出血は歯肉からの出血です。

歯磨きくわが小学校 令和4年度 7月号

8020通信

7月号

学校歯科検診を終えて

定期学校歯科検診を行いました。結果はいかがでしたでしょうか。学校での健康診断は健康診断ではありません。健康診断の結果が良かった場合は、歯磨きくわが小学校の先生からのお知らせです。7月1日よりお返しが完了しました。

定期学校歯科検診を行いました。結果はいかがでしたでしょうか。学校での健康診断は健康診断ではありません。健康診断の結果が良かった場合は、歯磨きくわが小学校の先生からのお知らせです。7月1日よりお返しが完了しました。

定期学校歯科検診を行いました。結果はいかがでしたでしょうか。学校での健康診断は健康診断ではありません。健康診断の結果が良かった場合は、歯磨きくわが小学校の先生からのお知らせです。7月1日よりお返しが完了しました。

⑤ 5年生全国小学生歯みがき大会への参加

毎年5年生の児童が全国歯みがき大会に参加している。歯肉の観察から始まって、歯肉炎予防の方法として歯のみがき方のほか、フロスの使い方を学習する。歯並びに合ったみがき方、歯と歯肉の境目のみがき方、細かい歯ブラシの動かし方も学習する。大会参加後には個人カルテを活用した、学校歯科医の指導を位置付けている。



口腔内写真を見ながら各自歯肉炎になっている部分を確認し、歯肉炎の部分を歯みがき大会で学んだ方法で重点的にみがくことで、歯肉炎予防のみがき方を日常の歯みがきで実践できるようにしている。

⑥ ワンタフトブラシの使い方指導

ワンタフトブラシを使って みがき残しのないきれいな歯を目指そう！

毎日正しい歯みがきをしていても、どうしてもみがき残してしまっている部分はありませんか？歯肉の境目や歯と歯の間の歯肉の境目などは、歯ブラシの毛先が届きにくいポイントでみがき残してしまいがちです。

使う前に

- まずは歯肉の歯ブラシで歯肉をきれいにみがきましょう

使い方

- 指が強いやすい歯肉にやさしく毛先をあてます
- ゴゴゴとすすらず、軽く動かして磨きます

※歯肉が赤く充血している場合は、やさしく動かすように心がけてください



ワンタフト
ブラシです

歯と歯の間



歯肉の境目



▼ こんな歯並びにくいところはワンタフトブラシを使おう！ ▼

<p>1 歯並びの悪いところ</p> <p>歯並びが悪い歯の間でも歯ブラシの毛先が届きにくいポイントでみがき残してしまいがちです。</p>	<p>2 矯正装置のまわり</p> <p>矯正装置は歯肉を刺激しているため、歯肉の境目に汚れがたまりやすいです。</p>	<p>3 奥歯の歯</p> <p>歯ブラシが届かない奥歯の歯肉の境目に汚れがたまりやすいです。</p>
<p>4 背の低い歯</p> <p>歯肉の境目に届きにくい歯の背の低い部分でみがき残してしまいがちです。</p>	<p>5 抜けた歯のまわり</p> <p>歯肉の境目に届きにくい歯の抜けた部分でみがき残してしまいがちです。</p>	<p>6 前歯の歯</p> <p>歯肉の境目に届きにくい前歯の歯肉の境目に汚れがたまりやすいです。</p>

保管と交換時期

- 色が変わった歯ブラシはよく洗って乾燥させましょう
- 毛先が折れてきたら、新しいブラシと交換しましょう
- 歯肉で刺激して歯肉の痛みがひどくなる場合は、歯肉科を受診してください

冬休みチャレンジ！

★ワンタフトを使って1日1回仕上げみがきをしよう★

ワンタフトを使ってみがき残しをゼロにしよう

Check	2/28	2/29	2/28	2/29	2/28	2/29	2/28	2/29	2/28	2/29
学校歯科医 横井先生による観察指導を受けるワンタフトの正しい使い方を見てほしい										
自分のタブレット端末で撮影した自分の歯肉炎の場所を確認しながら、継続的に歯肉炎予防を意識した生活ができる児童を増やしていけるようにしている。										

※この表はあくまで目安です。実際の状況に応じて調整してください。



5年生後期からワンタフトを使うことを学習し、歯ブラシとワンタフトを併用していく。歯肉炎を意識した歯みがきを実践することで歯肉炎が改善できること、反対に、歯みがきを怠るとすぐに歯肉炎が戻ってしまうことが、意識できる児童が多くなった。口腔内写真を活用し歯の汚れや歯肉炎の場所を確認しながら、継続的に歯肉炎予防を意識した生活ができる児童を増やしていけるようにしている。

⑦ 各教科における取組

1・2年生【図画工作「歯と口の図画ポスターづくり・コンクール応募」】

描く前に、歯ブラシの持ち方を確認し、タブレット端末を使用して自分の歯と口を撮影する。マスク生活で普段隠れている口の様子をじっくり観察する時間は関心を高め、歯みがきへの意欲付けにもつながる機会となった。



タブレット端末で撮影した自分の歯を見ながら、のびのびと自由に大きな口を描いた。子どもたちがマスクから解放された生き生きとした作品が出来上がった。

5年生 【家庭科「青菜をゆでよう」】

野菜の切り方やゆで時間によってかみ応えが違うことから、小さく切りすぎない、ゆですぎないように気を付けることで、かむことを意識した調理ができるよう学習している学校での調理実習の代わりに、家庭で、学校での学習を振り返りながら実践することとした。完成したものはタブレット端末を通して共有した。

5年生 【保健学習「けがの手当て」】

登下校中のすり傷や休み時間に児童同士が接触するといったけがが多いことから、自ら危険を予測し、安全を確保することを学び、力を付ける必要性を感じてきた。けがの手当ての中で歯と口のけがについて歯の打撲を例に示した。走っていて転んだり、人や物にぶつかったりと、歯を打撲して割れてしまったり抜けてしまったときには、歯根部は触らず軽く砂を落とし、保存液に入れてすぐ歯科医院を受診すること、保存液がない場合は、牛乳に入れるか、自分の口の中に入れて受診することを学習している。けがの手当てだけでなく、落ち着いた学校生活を送ることにつながっている。

6年生 【保健学習「病気の予防」「薬物乱用の害と健康」】



薬物乱用と歯の健康に関しては、病気やけがを治すための薬でも、この目的以外に使ったり、法律で禁止されている薬を使ったりすることを薬物乱用といい、歯がボロボロになるだけでなく、全身の健康に大きく影響を及ぼすことや、心にも深い傷を負うこと、薬物を勧められた時の断る方法を学習している。

6年生 【食育「家庭の食育マイスター」】



岐阜県では6年生児童を食に対する正しい知識と望ましい食習慣について学習し、家庭で実践したり家族へ広めたりする「家庭の食育マイスター」に委嘱している。家庭で調理に挑戦し、家族のために料理をすることにより、児童を中心とした家庭内の食育の推進をしている。夏休みには、学校や家庭で覚えた知識と技術を生かして料理に挑戦した。家族が元気に過ごすための食生活の営みの大変さや、やりがいに気付くことができた。



「家族の健康のために5大栄養素などが取れる料理をつくる。」と宣言した児童は、お肉たっぷりの野菜炒めをつくった。家族の一員としてアイデアあふれる手作り料理に挑戦した。

⑧総合的な学習における取組

5年生 【健康な歯をいつまでも】

ねらい

- ・歯・口の健康の大切さを知り、健康に過ごすための方法を体系的に学習する。
- ・歯・口の健康への1～5年生の取組を振り返り、よりよい生活習慣を身に付ける。

10月最初にテーマを決め、本やタブレット端末で調べ学習をし、模造紙や画用紙にまとめて、発表を行っている。学習を通して、5年生児童は、自身の歯みがきの技術や歯と口の健康に関する知識がさらに深まり、その後の歯みがきに対する前向きな姿、生活習慣を見直す良い機会になっている。

自分たちが得た知識を仲間に発信していくことで、お互いの知識を共有し学校全体が歯科保健活動活性化に向けて積極的に取り組む姿が多く見られるようになっている。

(4) 児童会・生徒会の活動状況

全校児童が、健康に対する意識を高め続けるために、児童会から発信する活動は、大きな原動力となる。その中でも児童健康委員会が中心となり、全校に向けた活動を展開している。児童の自発的な実践を通して、歯と口の健康を保持増進する意識を高めている。なかでも、健康委員会では、全校の健康課題のむし歯、歯肉炎の予防について話し合い、解決を図るため活動を工夫しながら展開している。

①みんなの「やってみよう！」をひきだすピカリン訪問

給食後のさくら3周みがきを正しいやり方でできるように、健康委員が自分の担当学級へ行き、みがき方のアドバイスをを行っている。みがく場所が間違っている子、歯ブラシの動かし方がよくない子のために、歯牙模型を持ってみがき方の手本を見せている。

最後に、頑張ってみがいていた児童を紹介したり、よかったところや、もう少し頑張ってもらいたいことを伝えたりしている。ピカリン訪問を続けていくうちに、自分も「やってみよう！」という意欲が学級の子どもたちから引き出され、今では健康委員と共に学級の歯みがき代表の児童が積極的に活動している。自分の歯から友だちの歯へ、様々な人の健康に触れることで、学んだことが単なる知識として身に付くだけでなく、その気付きが自分の生活を改善していこうとする力へつながっていくと考えている。



学級の児童は健康委員と一緒に前に出て歯みがきの手本を見せたり、健康委員に代わって歯みがきタイムを進行したりして意欲的に取り組むようになってきた。

②「やってみよう！」と意欲を高める創造的な活動

【目指せ歯と口の健康！歯ピカ標語とピカリンキャラクター】

歯科保健活動をアピールするための「歯ピカ標語」と「ピカリンキャラクター」の投票を開催した。家族の協力を得ながら考えて「五・七・五」の字数に合わせて言葉を選んだり、自分なりのキャラクターを考えたりして、多くの児童の作品が集まった。健康委員が中心となって全校で投票して最優秀作品を決定した。掲示板の前で自分の好きなキャラクターを楽しそうに交流し合う姿が見られた。投票には学校歯科医も特別審査員として参加しみんなに愛されるキャラクターと標語が決定した。



【着ぐるみの作成】

児童の意欲を高めるために、教材の工夫をしている。自作の教具を活用することで子どもたちの興味や関心を高めることができると考え、児童が考えた歯みがきキャラクターの着ぐるみを手作りした。「さくらホワイト」の誕生により子どもたちは楽しく歯みがきをし、取組を継続する原動力になっている。

標語グランプリ

ていねいに 3しゅうみがき さいごまで



③食育を推進する歯・口の健康づくり

【歯によい献立考案】

学校の教科や保健活動の中で、良い歯が生涯の健康に大切なことは学んでいる。「良い歯＝歯みがき」の意識は育っているが生涯続く歯の健康のためには「バランスの取れた栄養の摂取」や「よく噛む習慣」等食に関わる生活も大切であることを伝えたいという願いから、歯に良い献立考案に取り組んだ。歯に良い献立を考える中で、「歯に良いとは何か」という視点から食材や調理方法、食べ方の工夫について意見を出し合い、考えを深めていった。タブレット端末を使用した調べ学習をした後、実際に家庭で調理してレポートにまとめた。それぞれが持ち寄った歯に良い献立の中から給食で提供可能な料理を栄養教諭とともに相談し、バランスの良い献立の組み合わせを提案した。全校投票を行い、みんなで考えた独自献立を最終決定した。

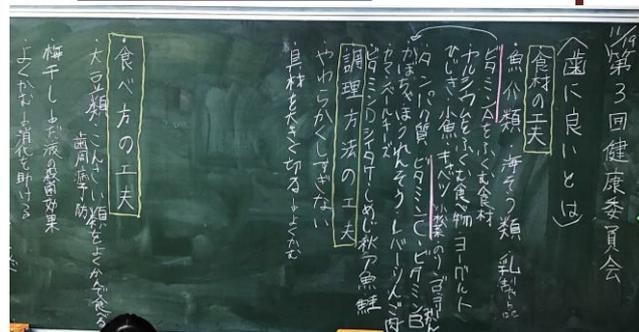
給食の様子

【献立考案の流れ】

①調べる



②交流し深める



委員会では調べ学習で得た知識を交流し、各自献立を考えた。実際に家庭でつくりレポートにまとめ、全校へ発信した。

③実際に作ってみて歯に良いポイントをまとめる

私が考えた歯にいいごんだて

こんだて名
ごぼうとにんじんのからあげ

材料
人参、塩、めんつゆ、油、マヨネーズ、ごぼう、しょうが、油、おろし、油、ごぼう、マヨネーズ

作りかた
①長さ5cmのスライスする。塩少々ぬぐい、水気を拭き取る。
②からあげ粉をまぶし、油で揚げた。
③マヨネーズをかける。

こんだての説明：歯にいいポイント
ごぼうは食物繊維が豊富だから。
にんじんはビタミンAが豊富だから。

私が考えた歯にいいごんだて

こんだて名
ゴボウと牛肉のスタミナチャーハン

材料 (4人分)
ごぼう 800g、しめ油、ごぼう、牛肉、小松菜、溶きたまご、にんにく、しょうがスープの素

作りかた
1. 小松菜は皮を包丁の背でこきげ取り、水にひたしておく。
2. 小松菜とごぼうは5cm幅に切る。
3. フライパンに溶きたまごを入れて熱し、溶きたまごをながし入れ、わりと大き目の切りたまごをつくる。

こんだての説明：歯にいいポイント
ごぼうのようにせんせいの多い食べ物直せが歯にいい食品はばれ食で歯の清掃をしてくれます。
健康な歯を維持するには硬い食材です。また、野菜類の中で小松菜は歯の原料となるカルシウムを多く含みます。
ごぼうを煮ごはんにすることで、せんに多くとることが出来ます。
今回、ぼくはもち麦を使用しました。

④全校へ発信し、みんなで考えて選ぶ

⑤独自献立として給食で提供

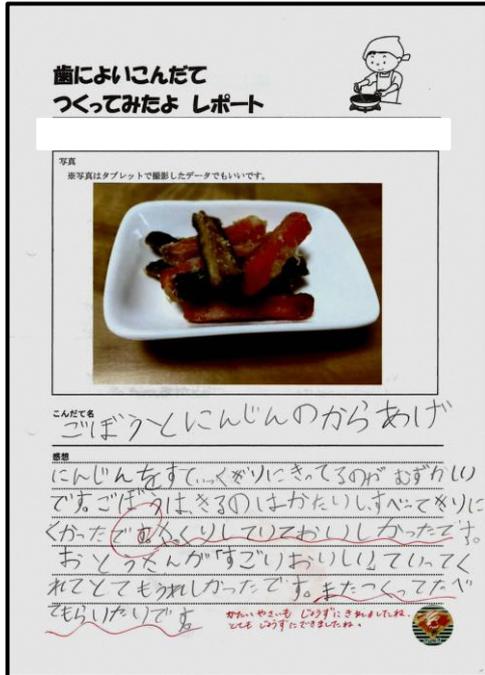
わたしが考えた歯にいいごんだて

児童が考えた献立の中から実際に食べたい献立を投票で決定した。



全校投票の結果、ごぼうとにんじんのからあげ、ごぼうと牛肉のスタミナチャーハン、具沢山味噌汁の献立が選ばれた。自らが参画した給食を通じて、歯に良い食事を仲間働きかけることで、自分のみならず、家族・仲間にもより良い生活習慣として伝えることが

できた。さらに考えた献立はレシピとして配付し家庭での実践を促した。家庭で作ってきた児童の「つくって見たよレポート」が集まった。



健康委員会で企画した歯に良い献立が、児童の「やってみよう！」という意欲をかきたて、主体的に実践していくことにつながった。歯と口の健康づくりを目指すことが、むし歯や歯周病の予防だけにとどまらず生活習慣病の予防にもつながり、生涯を通じた健康づくりの活動となるように児童の意欲を大切に育んでいきたい。

にんじんをすて、くきりにきるのがおもしろいです。ごぼうはきるのがかたいし、すべってきりにくかったです。おとうさんが「すごいおいしい」といって、とてもうれしかったです。またつくって食べてもらいたいです。(1年生児童)

④児童会との取組

廊下を走って移動する児童がおり、転倒したり、衝突したりして事故につながる危険があるため児童委員と健康委員が廊下歩行を呼びかけている。委員会単独で取り組むより、他の委員会と協力して行う活動の方が、効果が期待できることが分かった。今後も、給食委員会とともに食育に取り組んだり、図書委員会とともに歯に関する本の読み聞かせを行ったりするなど、各委員会が相互連携しながら活動の輪を広げていけるように考えていく。

(5) 家庭・地域等との連携

①家庭との連携

【家族歯みがき調べの実施】

家族でカラーテストをすることでマスク生活により意識が低くなっていた口の健康に目を向ける取り組みとした。歯みがきカルテを活用し家族歯みがき調べに取り組んだ6年生児童は、「口腔内写真を活用することで、歯肉に気を付けてみがくようになった」「染め出し結果と口腔写真を比較することで、みがき残しに気を付けてみがくようになった」というように、口腔内写真に写る今の自分の口腔の健康状態とマーカーされた歯肉炎、赤く染まった部分とを確認し、より深い学びにつながった。低学年は家族歯みがき調べを通して我がが子の口腔に関心を持ってもらえるようにした。



仕上げみがきが必要なことや、毎日の歯みがきの積み重ねが健康な歯と口につながることをみがき残しから感じてもらうことができた。活動後の感想から、家族でお互いの歯と口の健康について向き合う時間ができてよかったことが伝わってきた。

ぼく・わたしのわかったこと。これからがんばりたいこと
歯と歯の間やおく歯のかみあわせがよくなっていて
そこをより具体的にみがきたいと思いました。
また歯をらびが白い歯の同ヘルスマガみがきにくいのがかなりよくなっていて
おどろきました。

おうちの人のひとこと
すみずみまでしっかりと磨いているようでも磨き残しがある事がわかりました。
鏡を見ながらその部分に気を付けて、これから更にピカピカの歯を目指して下さい。
定期的にチェックできると良いですね。

②地域との連携

【三世代ふれあいイチョウまつり】

地域、PTA、保護者、子どもたちがつくりあげた「三世代ふれあいイチョウまつり」を開催した。校内・公園・歩道などの清掃を保護者の方々と共に活動したり、地域やPTAの方々のブースを回ったりと、楽しい時間となった。「イチョウメッセージボード」には、子どもたちの「こんな地域にしたい」という願いがあふれた。

今後は健康ブースを立ち上げ、8020達成者とのふれあいや歯と健康と食べ物の視点からキシリトール入りガムやフッ化物配合歯磨剤などを題材に、健康づくりの意識の向上や実践化の進展を目指す活動を計画していく。



児童に自己管理能力を身に付ける指導

ヘルスプロモーションの理念のもと様々な視点から歯と口の健康に関する取組を積み重ねていく中で、自ら学び、自ら考え、主体的に判断する力が身に付いてきている。

その姿は、日常の自己管理にも積極的な姿として現れるようになってきた。

①心のケアや危機管理の推進

【毎朝の検温】

朝の検温を、自己管理の第一歩として意識付けられるよう徹底した。校務支援ソフトの導入により欠席情報や毎朝の体温の情報がタブレット端末で共有できるようになった。

朝玄関で、職員がチェックし児童の心身の変化に早急に対応できるようにした。未入力の子供には、その場で問診と検温を行っている。毎日実施する意味を伝え保護者へ協力を求め、その都度、その意味を指導し続けた。毎朝の健康観察を家庭と協力しながら実施し、継続した声かけをしていくことで、検温が「自分の健康を守る大切なこと」という意識が育まれ習慣化されるようになった。検温の確認をしていると児童自ら「元気です。」「熱はないです。」と体調の変化を報告してくれる姿もあった。また、登校してくる児童の様子を見届けながら言葉がけをすることが心のケアにつながり、子供たちの信号をキャッチする場となっている。



【熱中症とマスク】

熱中症は環境の変化に伴う健康問題である。熱中症予防として毎日WBGT測定を行い、給水や屋外での活動制限について休み時間や下校時に放送で伝えている。その際、情報の発信だけではなく行動を促す声かけを大切に、効果的なヘルスプロモーションを生み出すようにしている。

コロナ禍では熱中症予防のため屋外でマスクを外す指導の一方で、マスクを外すことへ抵抗を示す児童への配慮も必要である。マスク生活に慣れすぎて外すのが恥ずかしいといった思いや感染症への不安を受け止め、命を守るために今優先することを伝えていくことで、健康のために主体的に考えて取り組めるようになっている。熱中症予防と感染対策を推進していく中で、一人一人の思いに耳を傾け、教育や支援、環境づくりに反映できるように工夫を重ねている。



マスクを外すことをためらっていた児童も熱中症の危険性を理解しマスクを外して遊ぶようになった。



運動中も水分補給ができるように準備して活動している。
WBGT 測定を毎日実施し活動の基準を決定している。

WBGT	活動制限	対応
25.0以下	通常活動	通常活動
25.0~26.9	軽度制限	軽度制限
27.0~28.9	中度制限	中度制限
29.0以上	重度制限	重度制限



②自分たちで安全な環境づくりを目指す活動

集団感染のリスクを高める要因として、換気の悪い密閉空間（密閉）・多数が集まる密集場所（密集）・間近での会話や発声をする密接場面（密接）という3つの条件が考えられている。このようなリスクを低減するための環境整備について学校内科医、薬剤師の指導を受けて実施した。職員の共通理解のもと進めてきた結果、児童が環境を意識し進

んで活躍するようになった。

- ▶内科医からトイレ掃除や、熱中症予防を視点とした体育時のマスクの着用についての指導、歯科医から給食後の歯みがき再開に向けた指導、薬剤師からエアコン使用時の換気方法、教室等の消毒方法、消毒薬の選択について指導を受け、職員にも周知した。
- ▶指導していただいたことや学校内での課題をもとにした職員研修の場を設け、正しい知識のもと、全職員が同じように児童へ指導し、環境を整えられるようにすることが未然防止につながることを共通理解した。
- ▶児童のタブレットに、コロナ感染予防動画など、校医による指導に基づいた動画コンテンツを作成し保護者への啓発を兼ね、家庭でも取り組めるように配信し共有した。
- ▶未然防止のための環境整備であり、命を守る環境整備であることを意識した職員研修を実践した。



内科医による給食参観を実施し、手洗いや手指消毒の様子を見ていただいた。きちんと手を拭いて乾燥した状態でアルコール製剤を使うこと、配膳時の正しいマスクの着用について指導を受けた。

【換気】

換気の適切な方法については感染症対策を安全管理として学校全体で行うことで、児童が下校時に自主的に廊下や階段の窓を閉めて帰る姿もあり、自分たちの環境を自ら整えようとする意識が高くなり、健康を守る態度が養われた。



教室は、換気扇を常時運転し排気している。換気扇の点検や清掃を行い快適に使用できるようにしている。気候に合わせて窓やドアをあけて空気の入替えを実施している。

【あいさつ運動と密集回避】

児童のあいさつ運動とともに、人数を制限する声かけを行った。継続した声かけにより、混み合っているときには、児童が自分で立ち止まって中の様子を確認してから入る姿も見られるようになった。



委員会のあいさつ当番の児童が「中が込み合っているので、もう少し待ってください。」などと声をかけている。

3 成果と評価

(1) 成果の状況

- ・ヘルスプロモーションによる生きる力を育成するために、歯と口の健康教育を柱として取り組む中で、児童に自己管理の大切さやコロナ禍でも「やれることをやってみよう！」という健康に対して前向きにとらえる気持ちが育まれ、毎朝の検温、環境整備や熱中症予防など様々な場面で、主体的に行動できる姿が多くなった。
- ・高学年を対象にした口腔内写真を活用した歯肉炎予防指導は、歯肉炎が改善されただけでなく、「やれば結果がついてくる」という次へのステップとなり、家庭での実践につなげ生活習慣改善を目指すことができた。
- ・ホームページやPTA広報誌、学校だよりや学年通信、保健だより等を通じて学校での取組を紹介していくことで、家庭や地域の健康教育に対する理解が深めることができた。
- ・家族歯みがき調べ（カラーテスト）では、親子のコミュニケーションが分かるコメントが多く書かれていることから、家庭の理解度の高まりが伝わった。
- ・タブレット端末の普及によりICTを活用した健康教育を学校歯科医と相談しながら推進していくことができた。
- ・児童健康委員が中心となって行っていた、昼の歯みがきが学級の児童のやってみよう！という気持ちで広がり、全校でさくら3周みがきに取り組む姿が見られるようになった。この広がりがコロナ禍での歯みがきへの大きな推進力となった。

(2) 今後の課題と対策

- ・今後も、学校、学校歯科医、家庭地域が連携しながら歯科保健活動を行うことにより、自分の課題解決に向けた実践を行うことができるようにする
- ・体力向上や視力の低下などコロナ禍での児童の課題を受け止め、日常の指導で克服していけるような活動を健康安全指導部や児童委員会で企画していく。
- ・コロナ禍でのヘルスプロモーションの実践活動とその成果から今後また起こるであろう健康危機に、多くの教訓を得ることができた。この教訓を学校の危機管理として活用していく。

活動状況調査票Ⅱ

特徴的な活動②

児童の心身の健康を支える安全・安心な環境づくり ～ 未然防止と早期対応を重点にした危機管理を通して ～

1 重点課題と活動のねらい

(1) 課題の把握と設定状況

学校が児童に対して守り抜くものは、子供の命・健康、子供の心、子供の学びの3つである。新型コロナウイルス感染症が世界に広まり、子供を含め我々の日常が変わってしまったことにより、さらにその使命は強くなった。命・健康、心、学びを守り抜き、学校が幸せな自己実現の場となるためには、安全・安心な環境が基盤である。

しかし、学校や児童の周りには、安全・安心を脅かす危機が数多くある。災害、交通事故、感染症を含む病気やけが、犯罪、熱中症など、「外からの脅威」は挙げればきりが無い。加えて近年は、いじめ、ネットトラブル、不登校、児童虐待、ヤングケアラーなど、いわば「内なる危機」も増え続けている。

そのため学校は、様々な危機を予見・回避するための対策を講じるとともに、未然防止や早期の適切な対応等の危機管理体制を確立し、児童一人一人の心に寄り添いながら、児童にも教職員にも危機対応力を高めることが求められている。

本校も「ヒヤリハット」事案が少なからずあり、不登校傾向の児童が増加しており、コロナ禍にあっては、児童同士のコミュニケーションがうまくいかずにトラブルになる場面も多い。様々な危機に対応する力の育成は、喫緊の課題である。

そこで本校では、児童の心身の健康を支える安全・安心な環境を整え、様々な危機から子供の命・健康、心、学びを守る危機管理体制と危機管理能力の育成に重点を置いて取り組んでいる。

(2) 活動のねらい

様々な危機の未然防止と適切な対応のため、児童に付けたい力と教職員の組織的な管理の両面からねらいを定めた。

【児童に付けたい力】

自分の目で見て確かめて適切に判断し、相手の気持ちや立場を思いやりながら最善の行動を取り、失敗や困難に負けずに最後までやり遂げることができる。

【教職員の組織的管理】

教職員一人一人の危機管理意識と危機対応力を高め、教職員間、保護者や地域、関係機関と連携・協働を図りながら危機管理体制を構築し、児童の心に寄り添いつつ付けたい力を育成し、その心身の安全・健康を守り抜くことができる。

2 計画と実践の状況

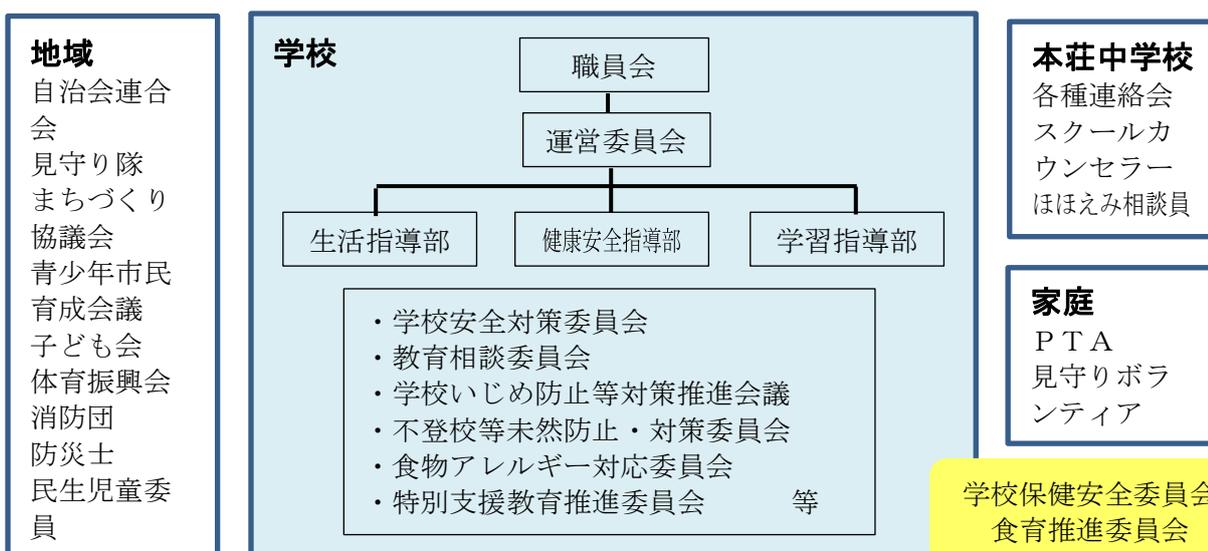
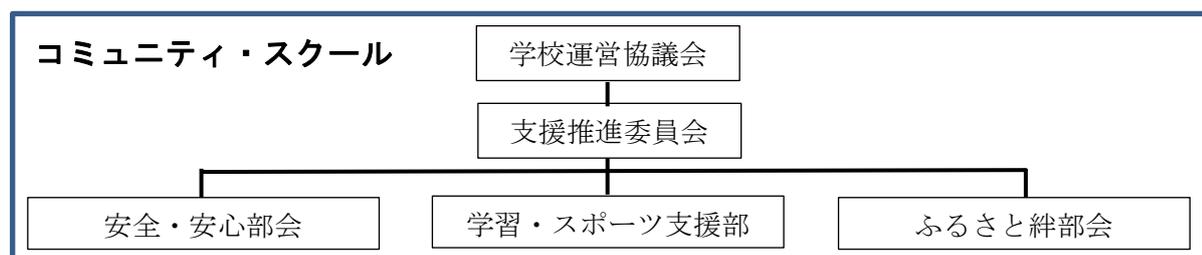
(1) 全体及び年間指導計画

防災の視点から命を守る全体計画に当たるものには「徹明さくら小学校防災計画」があり、年度当初にすべての教職員に周知している。また、いじめの観点から命や心を守る全体計画に当たるものには「徹明さくら小学校いじめ基本方針」があり、これは教職員だけでなく、ホームページにより保護者や地域にも伝えている。これらの計画や方針は、例えば年間に数回行われる「命を守る訓練」実施後の振り返りを基に、より実態に即した内容や方法に改めるなど、年間を通して見直しを進め、毎年更新している。

また、「学校教育計画」として作成される各種教育全体計画（道徳教育、生徒指導、特別活動、総合的な学習の時間等）との関連を図ることで、より児童に力が付くような実践となるように努めている。

このように、学校に存在する様々な計画や方針、マニュアルなどが児童を中心に有機的に関わり合い、PDCAサイクルによって絶えず見直しが図られて次の実践につながっていくことが肝要であると考えている。

(2) 組織体制



関係機関等

岐阜市教育委員会 岐阜市子ども・若者総合支援センター「エールぎふ」 岐阜市保健所
岐阜県子ども相談所 岐阜中警察署 岐阜中消防署 学校医・学校歯科医・学校薬剤師
木之本保育所・沖ノ橋認定子ども園 スクールロイヤー 各医療機関 岐阜市保健所等

(3) 活動の実践状況

①交通事故・犯罪・学校事故から身を守る

本校は、岐阜駅に隣接した岐阜市の中心部にあり、交通量や人流は多く繁華街もある地域であり、通学班による集団登下校の形態をとっていない。交通事故防止や防犯意識の高揚が必須の地域である。

【交通安全】

登下校時には危険な交差点に地域の「見守り隊」の方々30名ほどが立って見守り活動をしてくださっている。学校や保護者と見守り隊組織は、定期的に連絡会をもっている。学校の玄関に入ったすぐの壁にはその方々の写真を掲示しており、児童がその前を通りかかる際、自分が通らない地域の見守り隊の方の名前を覚えるなど、親しみを感じている。

保護者の「見守り活動ボランティア」もPTAから依頼してもらい、年2回以上、都合がつく日に各自実施し、気付いたこと等をアプリのアンケート機能で提出し、定期的にそれをPTA役員が集約して各保護者に配信し、危険箇所等について周知している。

また5月には、岐阜中警察署や交通安全協会の方にお越しいただき、交通安全教室を実施している。以前は歩行の仕方や自転車の乗り方など、実践的な内容を行っていたが、コロナ禍では集合型は避け、警察署の方の講話を各教室にオンラインで放映したり、学年に応じたDVDを視聴したりする形に変えている。4年生には「交通安全少年団」の入団式を兼ねているため、警察署の方から交通安全リーダーの委嘱と共に、地域の交通安全に関する活躍に期待する励ましの言葉をいただいた。



登校時の「見守り隊」の方と子供たち



「見守り隊」の方々の廊下掲示



保護者見守り活動による危険箇所の集約



歩行の仕方に関する交通安全教室



警察署の方の交通安全講話



4年生への交通安全リーダー委嘱

【防犯】

毎年低学年には、県警「たんぽぽ班」による「連れ去り防止教室」を実施し、高学年には、携帯電話会社による「ケータイ・スマホ教室」と、学校薬剤師による「薬物乱用防止教室」を実施している。



低学年の連れ去り防止教室



高学年のケータイ・スマホ教室



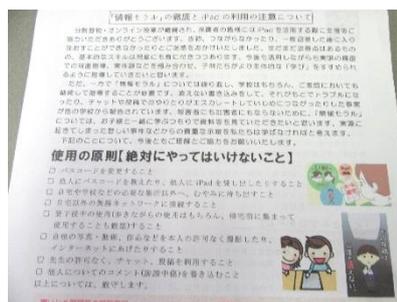
6年生の薬物乱用防止教室

ただ、小学校低学年からスマホを所持する児童も増え、GIGAスクールによって全児童が学校でも家庭でもタブレット端末を使うようになってきているため、ネットトラブルや情報モラルに関する内容は、情報主任から全校に伝えたり、学校だよりで家庭に啓発したりして、学級や家庭でもその使い方をよく話し合うよう指導している。

また、SNSを介した性犯罪被害も低年齢化している実態をふまえ、本年度から6年生に性犯罪防止教室を行った。これまで保健の授業などで性教育にも取り組んできたが、今回は「犯罪」と関連させ、県警本部の少年課に講師をしていただいた。児童からは、「自分のプライベートゾーンを大切にすることが、体だけでなく自分の心も大切にすることが改めて分かった。」「ちょっとふざけてしたことが性犯罪の加害側にも通じる行為になってしまうことに気付いた。」などの感想があった。



情報主任の情報モラルのテレビ放送



学校だよりでの情報モラルの啓発

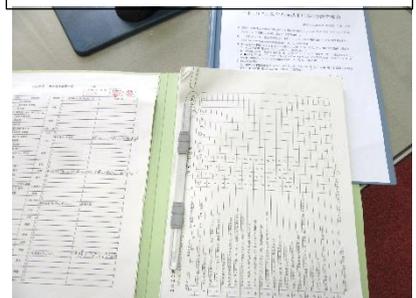


少年課による性犯罪防止教室

【学校事故】

校内安全点検では、月に一度行うだけでなく、常時「危険はないか」という目で確認することを大切にしている。安全点検後は、速やかに一覧表にして誰でも分かるようにし、校務員により早急に修繕をすることを基本にしている。校務員も修繕したところから修繕報告書を上げている。また、修繕が不可能な場合も速やかに教育委員会施設課等に相談している。

安全点検・結果一覧・修繕報告



②様々な災害から身を守る

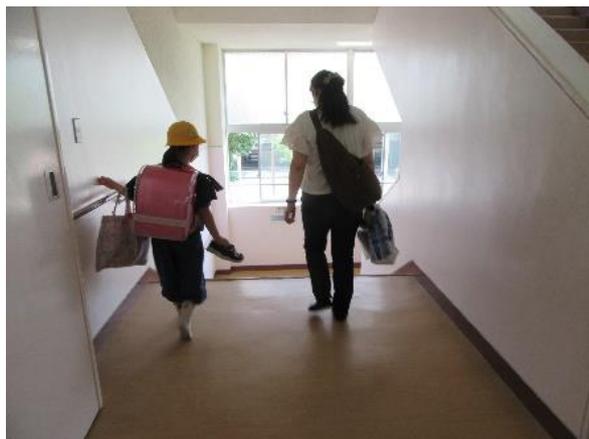
地震、水害は、「いつか起きるかもしれない。」から、「いつ起きてもおかしくない。」と意識を変えなくてはならないほど、近年は身近で頻繁に起きている。災害発生時に命を守ることはもちろん、避難生活にも対応できるような「自助・共助」の力を小学生にも付ける必要がある。

そこで、災害発生時にも慌てずに判断できるよう災害について正しい知識を理解する防災学習を行い、判断に基づいて落ち着いて行動できるよう様々な想定での「命を守る訓練」を行っている。土曜日に行った地震に関する防災学習は、全校児童のタブレットにオンライン生配信し、家庭で親と一緒に視聴することで、家の中の危険や身の守り方を親子で確認する機会となった。

また、コロナ禍では以前のような地域と合同の防災訓練はできないものの、共助に不可欠な地域との連帯感や協働が図られるよう、中学校との合同引き渡し訓練を行ったり、地域の防災士を講師に招いて簡易防災グッズづくりをしたりしている。



土曜日等の教育活動での防災学習



引き渡し訓練では、保護者による引き取りに加え、中学生が小学生の妹弟を引き取りに来る訓練も行った。



地域の防災士の指導による「防災ペットボトルランタン」と「チラシでつくる防災スリッパ」づくり

③いじめから心を守る

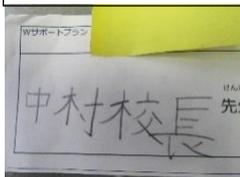
令和元年7月に起きた、市内中学生がいじめを主要因に自死するという痛ましい出来事から、岐阜市は、翌年「岐阜市いじめ防止対策推進条例」を全面改正した。その中では、教育委員会、学校、教職員、保護者の責務のみならず、児童生徒の役割、市民の役割も明文化され、毎月3日を「いじめを見逃さない日」と制定された。また、いじめの未然防止、早期発見・早期対応、発生時の対応に専任する教員「いじめ対策監」が各校1名ずつ配置された。

本校でも、全職員がいじめは児童の命や心の危機であると捉え、「いじめ見逃しゼロ」を合言葉に、いじめ対策監を中心に家庭や地域と連携をしつつ、未然防止、早期発見・早期解決に努めている。

早期発見に関しては、保護者と児童が共に行う「いじめアンケート」の他に、「心のアンケート」「STARアセスメント」を年間に繰り返し位置付けている。「いじめアンケート」に書かれた内容は、その日のうちに担任、学年主任、いじめ対策監、管理職がすべて目を通し、右にあるフローチャートを基本に聞き取りやいじめ対策推進会議を行うなど、その日のうちに解決に向けて動き出すようにしている。また、「いじめアンケート」を行ってから1週間は朝の時間を「教育相談週間」とし、担任が学級児童一人一人と1対1で話を聞く場を設けている。



カードを渡す児童（上）カード（下）



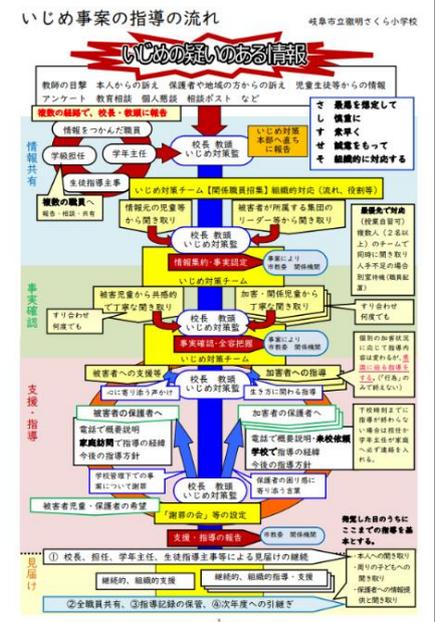
さらに、児童が担任以外にも自分の話しやすい大人に相談できるよう「Wサポート」のシステムをとっている。これは、児童が学校で担任以外に相談しやすい教職員を自分で決めるもので、どの児童がどの教職員をWサポーターに選んでいるか全校一覧にして教職員が把握するだけでなく、児童自らWサポーターの教職員にカードを渡しに行くようにしている。直接カードを渡しに行くことで、児童とWサポーターとのコミュニケーションが生まれ、日常的にWサポーターが声をかけたり表情を観察したりできるようになった。事案やアンケートの聞き取りに際しても、内容によっては、Wサポーターが加わることもある。

令和3年度 岐阜市いじめ対策活動報告

実施日	対象	取り組み内容	担当	など
4/1	職員	自分とみんなの「しあわせ」をつくる履修説明 岐阜市小中学校教育指針、学校教育の基本方針の確認 岐阜市いじめ防止対策推進条例、いじめを見逃さない日の確認 岐阜市立御幸小学校いじめ防止基本方針の確認	学校長 教務主任	いじめ対策監 生徒指導主事
4/5	保護者	自分とみんなの「しあわせ」をつくる履修説明 岐阜市立御幸小学校いじめ防止基本方針の説明 Zoomミーティング実施	学校長 いじめ対策監	教務主任
5/7	児童	シトラスリボンプロジェクトの紹介 シトラスリボンプロジェクトの実施	学校長 児童会担当	いじめ対策監
6/17	職員	職員研修「いじめアンケート、心のアンケート」		いじめ対策監
6/21	職員	STARアセスメントの事前研修		いじめ対策監
7/2	児童	SRSの出し方の授業	各担任	
8/30	職員	職員研修「児童の命や心の危機を空想」		いじめ対策監
11/1	職員	校内「いじめ防止等対策推進会議」		教務主任
1/7	職員	職員研修「虐待・人権」		教務主任
2/18	児童	いじめ防止の実践報告		教務主任
2/28	職員	校内「いじめ防止等対策推進会議」		いじめ対策監

実施日	対象	取り組み内容	担当	など
4/12	児童	安心して生活できる学校をめざす いじめ対策の紹介	学校長、教務主任	
5/7	児童	シトラスリボンプロジェクトの紹介 4つの約束の紹介	学校長 いじめ対策監	
5/10	児童	講師・指導員・個別・個別をしながら シトラスリボンプロジェクトの実施	学校長、教務主任、児童会担当	
7/2	児童	よりよい自分をめざす SRSの出し方の授業	各担任	
8/30	児童	よりよい仲間関係を築く 4つの約束の授業	いじめ対策監	
8/31	児童	さらによりよい自分をめざす SRSの出し方の確認	いじめ対策監	
10/14	児童	いじめを見逃さない学校をめざして 児童会執行部へいじめ防止月間の説明	児童会担当	
12/21	児童	いじめを見逃さない学校をめざして 「いじめ防止等対策推進条例」を全職員へ説明	児童会執行部 いじめ対策監	
1/7	児童	いじめを見逃さない自分をめざす 岐阜市いじめ防止対策推進条例の説明 いじめを見逃さない日の紹介 「いじめ防止等対策推進条例」の実施	児童会担当	
2/7	児童	いじめ防止の意識を高める 自分自身の成長を高める	児童会担当	
3/3	児童	いじめ防止の意識を高める 自分自身の成長を高める	各担任	

昨年度のいじめ対策監実施報告書



早期発見後の早期対応については、その日のうちに保護者や教育委員会に連絡を取りながら誠意をもって対応するように努めている。事案によっては、スクールロイヤーに相談し助言を得ることもある。また、早期対応により解決に向かった事案でも、担任、いじめ対策監、Wサポーターなどが中心となって3カ月をめどに事後の見守りや声かけを続けている。

未然防止には、最も力を入れている。いじめは誰にもどの学校でも起こり得る。「いじめをしない、させない、許さない」という行為に対する約束づくりで満足してしまうのではなく、その裏にある心の在り方や互いに認め合える人間関係づくりについて考えたり、「いじめかも」と気付いた時の行動を学んだりすることに主眼を置いて、毎月の「いじめを見逃さない日」を計画している。

例えばある月の「いじめを見逃さない日」では、全校にテレビ放送を使って、いじめをしてしまう心について問題提起をした。

じぶんとみんなのしあわせをつくるために、あなたができること

いじめをしない、させない、ゆるさない



みんなかんがで考えよう

いじめは、なぜおきるの？

ねたみふまんやつあたり

ぼくが楽しくないのは、あいつのせいだ。

あの子いじめないと、わたしがなかまはずれにされる。

ふあんさべつ

あの子、べんきょうもできるし、はらがたつ。

あの子は、かってなことばかりしてこまる。

あの子はいつもほめられて、ぼくはしかられてばかり。

あの子は、みんなとちがうからへんだ。

かんがえかたをかえると・・・

自分で楽しめることをみつけよう。

いじめる子がいなくなれば、なかまはずれもなくなるね。

まけないくらい、べんきょうをがんばるぞ。

あの子は、どうしてそんなことするのかな。

あの子はがんばっているところをほめてもらえてよかったな。

みんな、ちがうからおもしろい。



「いじめをしてしまう心」を考えるテレビ放送で使ったプレゼン（一部抜粋）とその放送の様子

また別の月には、スクールカウンセラーにオンライン配信で「SOSの出し方・気付き方」について話をしていたいたり、学級で学年に応じた気持ちの切り替え方や「SOSの出し方・気付き方」について話し合う授業を行ったりした。スクールカウンセラー2名は、それぞれ月1回程度来校しているが、「先生以外にも話を聞いてもらえる人」として児童も認識しており、保護者からの相談にも数多く対応していただいている。



スクールカウンセラーのオンライン配信

④いかなる状況でも、自己肯定感を高め、夢や希望を拡げる

毎年行われる全国学力・学習状況調査で国語や算数の点数以上に校内で話題にしているのは、児童質問紙の状況である。学びに向かう力の源となるのは、今が幸せだと感じる児童の心の健康だと考えているからである。児童質問紙の回答から、毎年のように本校の課題と感じているのは、「自分にはよいところがあると思うか。」「夢や目標をもっているか。」という項目である。

安全・安心で幸せな環境は、周りの大人だけでつくるものではない。当事者である児童自身が自分を好きになり、他者のよさや違いを認め合い、時には失敗をしても粘り強く取り組むことができた達成感を味わう前向きな心が必要だ。そのため、自己肯定感を高めたり、多様な他者との協働を通して夢や希望を拡げて達成感を味わったりできる活動を次のように工夫した。

【「とことん学び」と「さくら満開ロード」】

自己肯定感を高める取組として、自分のよさや強みを生かす「自分の好きなこと」にのめり込んで学ぶことを「とことん学び」と称し、高学年で実践した。昨年の夏休み明けは新型コロナウイルス感染症の第5波のため、岐阜市の公立小中学校は児童生徒数を半数に分け、隔日で半数が登校し、半数は自宅でオンライン授業を行う分散登校となった。しかもその期間は、午後の授業は無しになったため、これを機会に自宅で自分の好きな学習や取り組みたいことを行う「とことん学び」の計画を立てた。取り組んだことはノートの他、写真や動画などを使ってオンラインでの提出もできるようにした。

歌が好きな児童は毎日歌を歌って録音したり、卓球が得意な児童は毎日のトレーニングの様子を動画に撮ったりしてオンラインで提出した。ゲームが好きでプログラミングに挑戦した児童も、家で飼っているハムスターに興味をもって生態を調べ、その様子を4コマ漫画に描き続けた児童もいる。大半の児童が自分の好きなことに生き生きと、「とことん」取り組む姿が見られた。そして何より、うまくいってもいなくても、楽しそうな児童の姿があった。この「とことん学び」は、本年度、家庭での自主学習や長期休業中の学び方のひとつとして、続けて取り組んでいる。

さらに本年度は、自分のよさや強みを伸ばす努力をしている児童のがんばりについて、「さくら満開ロード」と名付けた校舎の渡り廊下に、1人1枚のカードに記して掲示をしている。「よさみつけ」はどの学級でも行っているが、このカードは、自己申告制になっている。自分を自分で認めることで、自己肯定感を高めたいと願っている。



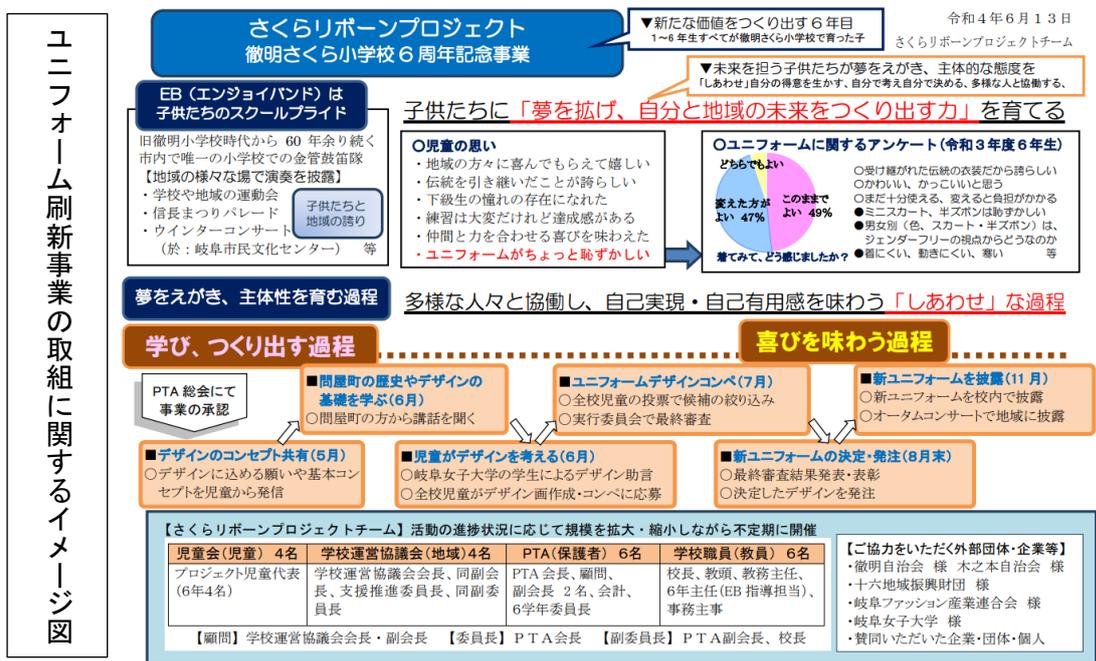
【「さくらリボンプロジェクト」ユニフォームの刷新】

本校には、統合以前から60年以上にわたって続いている金管鼓笛隊「エンジョイバンド」があり、地域の行事や岐阜市で行われる「信長まつり」のパレードなどで演奏し、地域の人々に愛されてきた。コロナ禍で管楽器の練習すら満足にできないなかでもグラウンドで距離を取って練習したり、地域行事が中止となっても学校独自で演奏会場を探し、地域の方々に聴いていただく演奏会を開催したりして、6年生全員で絶やすことなく活動を続けてきた。下級生にとっても、6年生になったら「エンジョイバンド」で演奏するということが憧れにもなっている。



昨年度の演奏会で初めて「エンジョイバンド」のユニフォームを着た6年生が、違和感を口にした。20数年前から引き継がれているユニフォームは、女子は赤の上衣に白いミニスカート、男子は青い上衣に白い半ズボンとなっている。「女子が赤でスカート、男子が青でズボン」というところに、ジェンダーフリー・ジェンダーレスの視点から違和感を覚えたという。LGBTQを含め、多様性という観点での児童からの問題提起であると受け止め、児童に改めてアンケートを取った。アンケートの集計結果を基に、児童の希望を確かめ、長い年月で傷みも見られるようになってきたユニフォームを刷新することを決めた。

令和4年度は、開校6周年という記念の年であるため、「さくらリボンプロジェクト」の記念事業として、児童が自分たちでユニフォームをデザインし、保護者や地域、地元企業等と協働しながら完成させる活動を描いた。ユニフォームの刷新を通して、児童が夢や希望を拓げ、自分たちで主体的に夢を実現させる活動である。



本校の校区には、戦後より「繊維の街」として栄えた問屋町という地域があり、今もアパレル企業がいくつもある。その中心の「岐阜ファッション産業連合会」や、岐阜市の被服に関する家政学部のある岐阜女子大学などにプロジェクトへの協力を仰いだ。現在までに、「夢を形にする」プロジェクトの流れは次のように進んでいる。

6/10 岐阜ファッション連合会理事長の講演
(ファッションの意義、問屋町やアパレルの街の歴史について話を聞く)



6/16 岐阜女子大学家政学部生活科学科の学生さんの出前授業 (デザイン画の基礎を学び、アドバイスを受けてデザイン画を描く)



7/4,5 プロジェクト実行委員代表児童による
コンペティションの準備

デザイン画を募集したところ、全校から121点の応募があった。プロジェクト実行委員の代表児童で準備を進め、全校児童によるコンペティションを開いた。コンペの日程を授業参観の日に合わせて、保護者にもご覧いただいた。



7/6,7 デザインコンペティション



7/13 プロジェクト委員会最終審査



コンペティションの全校児童による投票数が多かった十点余りの作品で、最終審査を行った。最終審査を行ったプロジェクト実行委員会では、地域代表、保護者（PTA）代表、ファッション産業連合会代表、学校代表に加え、プロジェクト実行委員の代表児童も参加し、大人に交じって臆することなく自分の考えを述べていた。

現在は、業者デザイナーと代表児童とが生地や色、デザインの細部について話し合いながら進めている。自分たちの夢や希望を、多様な大人と共に自分たちの手で実現させ、11月にはお披露目の演奏会で達成感を味わうことができると確信している。

(4) 児童会・生徒会の活動状況

【シトラスリボンの取組】

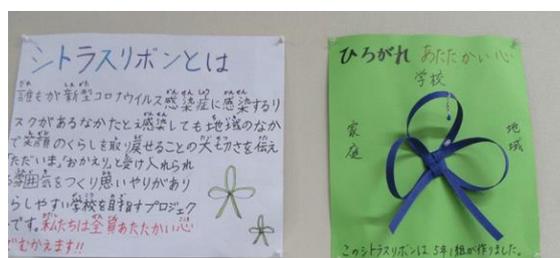
令和3年5月初旬、本校児童で初めて、1名が新型コロナウイルス感染症に罹患したと診断された。1日休校し、当該児童が在籍する学級全員に校庭でドライブスルーPCR検査を行った。当該児童やそのご家族の体調の心配と同時に、その児童の心を守り、安心して治療・休養・再登校してほしいと切に思った。当時はまだ世の中全体に、新型コロナウイルス感染症に対する偏見や罹患者・濃厚接触者への誹謗・中傷が少なからずあった。

そこで休校明けの朝、校長から全校放送で、他県で始まった「シトラスリボン」の取組を例に、コロナに関する詮索・差別・誹謗中傷を本校で無しにしたいという話をした。すると、濃厚接触の疑いで学級閉鎖になっていた隣の学級から、「〇組が登校してきた時に、シトラスリボンで、温かく『お帰り』と迎えたい。」という声が上がった。その学級から、児童会に「全校で作るようにしてはどうか。」という提案がなされた。

自分たちで作りたいけれど、作り方が分からないので、手芸に詳しい学校隣にある公民館の主事に尋ねたところ、2日後、右にあるような全校児童数のシトラスリボンが地域の方々から学校に届けられた。全校児童は、このシトラスリボンをランドセルや筆箱など目につくところに付け、自分が差別や誹謗中傷をしないだけでなく、家庭や地域にそうした温かい心が広がっていくことを願うようになった。まさにシトラスリボン「3つの輪」である。



地域からいただいた全校児童分のシトラスリボン



隣の学級の仲間が再登校したら…思いを込めて

僕は人を差別せず、
あたか言葉で優しく
あふれる学校に
します。

わたしは、差別をしない？
差別をしている人
も注意する？
そうすることでみんなを
『あわせ』にする？

ぼくは、やさしい心の
不安になっている。
人たちに元気を
あたえよう。

ぼくは人を思しやる気持ちで
あたかやり重力をします。

シトラスリボンを付ける私の「人権宣言」

高学年の児童委員をリーダーに、全校でシトラスリボン作りが始まった。「お父さんやお母さんにも渡して、同じ気持ちになってほしい。」「中学生のお兄ちゃんにも付けてほしい。」という低学年。「広く地域の方々に配って、地域全体が温かい思いやりにあふれた地域にしたい。」という高学年。作り方を教え合いながら、シトラスリボンは全校児童の手によってどんどん数が増えていった。



全校でシトラスリボン作り

出来上がった約400個のシトラスリボン、児童が地域の方々への願いを込めて手書きしたメッセージカードと共に小袋に入れ、地域の方に配ったり、校区に二つある公民館の窓口においていただいたりする



児童委員による袋詰め作業



自治会長さんと公民館長さんに

ることとした。実際に窓口においていただいた後、公民館の方から話を伺うと、来館された地域の方がとても喜んで手に取ってくださり、メッセージカードを読みながら持ち帰ってくださったそうである。

本校では、国内の感染状況と同じようにその後もコロナ感染は続いているが、児童はもちろん、保護者や地域の方々からも、そのことによる差別や誹謗中傷の話は聞いていない。児童が家庭や地域に働きかけたことによる効果が少なからずあったのではないかと、児童と共に自負している。

また、温かい「おかえり」の気持ちが、コロナ感染に関連した児童だけでなく、不登校傾向等により、学校や教室になかなか足が向かない児童にも向けられていることは、嬉しい波及効果であった。

【「あったか言葉かけキャンペーン」の取組】

本年度は、児童会で「あったか言葉かけ」に取り組んだ。「誹謗・中傷をしない」からさらに一歩進め、自分から進んで温かい言葉をかけることで、互いを思いやる温かな人間関係を醸成しようとする活動である。児童委員は、全校が楽しく前向きにこの活動に取り組めるよう、学校のシンボルでもある桜の木をモチーフにしたキャラクターを考え、その絵をジグソーパズルにして各学級に配付した。キャンペーン期間中、各学級で「あったか言葉」が増えるたびにパズルのピースが増えていく仕組みとなっている。

本年度は中学校区（2小・1中）の生徒会、児童会の交流をオンラインで行ったが、本校の児童委員は、この取組について誇らしげに語った。「取り組むうちに、言動の裏にある気持ち・思い・心に気づき、キャンペーン期間が終わっても『あったか言葉』をかけ合おうとする児童が増えた。」という趣旨の内容を他校の児童会や生徒会に向けて話した。



ピースが集まって完成したパズル



児童会・生徒会のオンライン交流

(5) 家庭・地域等との連携

①情報発信

家庭や地域への情報発信については、これまでも学校だよりや保健だよりをはじめとする各種の通信やホームページを使ってきた。学校だよりは保護者に配付するだけでなく、地域にも毎月、回覧板で回覧していただいております、本校のホームページは、地域の方にも誰にでもご覧いただけるようにしている。

昨今はそれらに加え、双方向のオンラインやオンデマンドに便利なコミュニケーションツールも活用している。前述したように、防災学習やSOSの出し方・気付き方などを、家庭で親子一緒に視聴することで、保護者が学校の取組を理解していただけるし、その内容が親子の話題にもなる。学校だよりなどの通信類も、紙に印刷して配付する方法から、保護者のスマートフォンや児童のタブレットにデジタル配信をするように変えつつある。紙からデジタルに変えることで、保護者は見たいときに何度でも手軽に見ることができるという意識に変わってきている。

②情報共有

コロナ禍で、対面型や集合型のフィジカルなつながりの機会は確実に減ったことは事実である。その分、様々なツールを使ったサイバー空間でのつながりが増えてきている。例えば、コロナ前は、授業参観後に当たり前に行われていた保護者の学級懇談会は、この3年間で1度しか開催できていない。PTA総会やPTAの役員会も以前のように行えない。しかし、PTAはオンラインで会議をし、クラウドサービスで各データが共有され、公式アカウントやオープンチャットで保護者同士のやり取りができるようになっている。情報共有がスピーディーに行われるところは、サイバー空間の良さである。

反面、一人一人の児童や保護者に寄り添い安心できる関係づくりには、顔を合わせるリアルなつながりが不可欠である。特に、いじめや不登校等で心が不安定になっている児童の保護者には、必ず頻繁に顔を合わせて話を傾聴することを基本としている。また、一人一人の状況や家庭環境に応じて、中学校区に配置されているスクールカウンセラーや不登校支援のほほえみ相談員、県の子ども相談所、岐阜市子ども・若者総合支援センター「エールぎふ」、医療機関、地域の民生児童委員など関係機関につないで情報共有をしたり、関係機関も参加するケース会議を開いて積極的な支援の在り方を話し合ったりしている。

③地域への主体的な参画と協働

昨年度11月、「三世代ふれあいイチョウまつり」を開催した。学校と地域との共催による行事で、街路樹のイチョウの落ち葉や学校隣の公園を児童と保護者、地域の方々が一緒に清掃し、その後、地域による出店ブースで楽しんだ。



土曜日等の教育活動の日に位置付けたため、9割以上の児童・保護者が参加し、高学年児童は、出店ブースの手伝いも行った。本年度は、歯の健康を地域に広めることを目的にした児童のブースも出す計画をしている。児童が地域の活動に主体的に参画・協働することで、学校や家庭以外の地域が、児童自身が困った時に頼ることができるサードプレイス・サードパーソンになることもできると考える。実際に、地域の中で子供の新たな居場所づくりを進めている場所・団体もある。

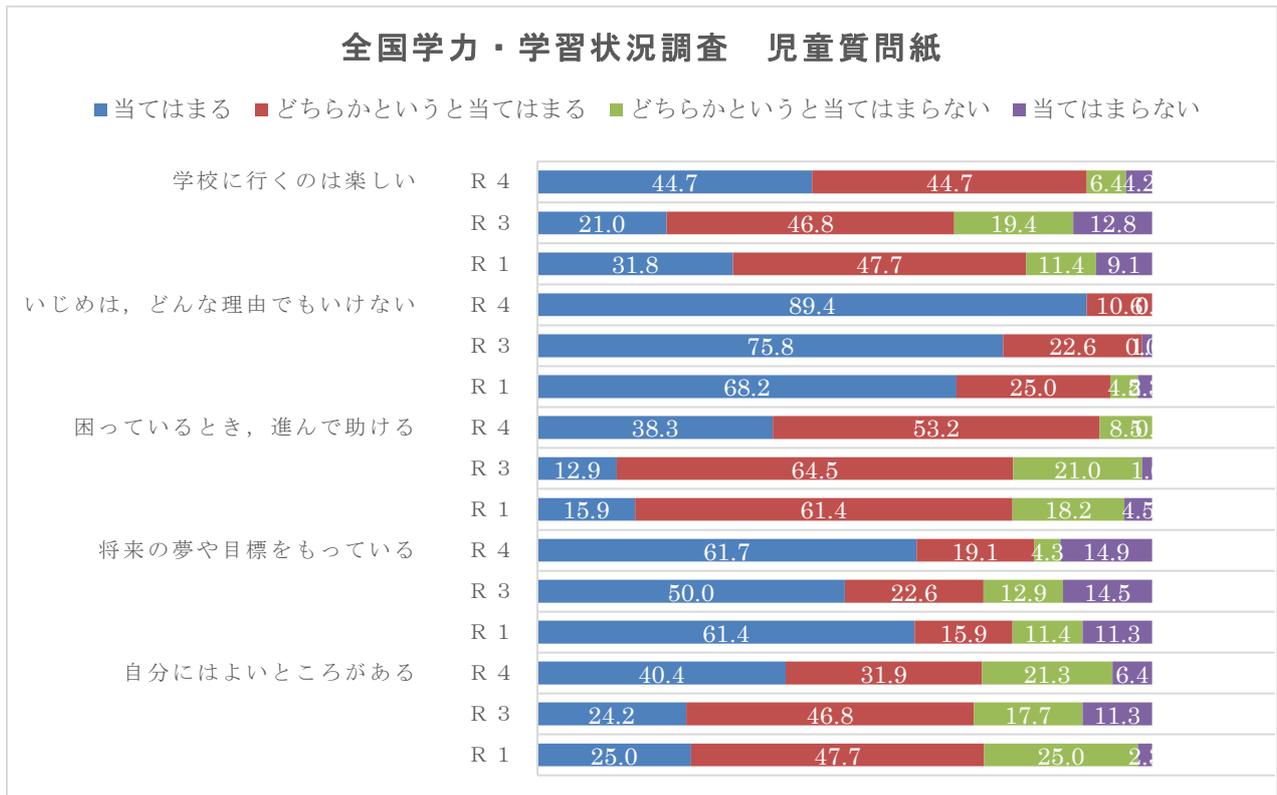
さらに、感染防止や参加児童数の減少により、地域の「子ども会」の活動もこれまで通りできなくなっている実態がある。夏休みのラジオ体操もその一つである。そこで本年度の夏休みには、PTAと地域のまちづくり協議会が共催して、学校隣の公園で三世代ラジオ体操の開催を計画した。児童を中心に、保護者世代と地域のシニア世代が協働する動きが生まれつつある。

こうした動きのなか、今後、学校・家庭・地域との連携がますます深まることを期待している。

3 成果と評価

(1) 成果の状況

下のグラフにあるように、全国学力・学習状況調査における質問紙回答の経年変化では、自己肯定感、夢や目標をもつこと、いじめや思いやりに関する項目で上昇の傾向が見られる。制限の多いコロナ禍にあっても、前向きな心で学校生活を送っていることがうかがえる。



(令和2年度は、新型コロナウイルス感染症による全国一斉休校のため実施なし)

不登校児童も、昨年末時点では15名（年間30日以上の不登校による欠席）だったが、教室復帰や学校復帰（別室登校・短時間登校・放課後登校）できるようになった児童が増え、本年度の6・7月は、月に7日以上欠席児童（疾病・けが等を除く）は7名になっている。学校の安全に関する指導・配慮については、昨年度の保護者アンケートで、「満足」68%、「ほぼ満足」31%の（計99%）の回答をいただいた。

こうした数値だけでなく、昨年度は相談室登校だった児童が、本年度は教室で学級の仲間と共に過ごし、自分の心の状態を考えて「次の時間は、保健室で休む」など、自己決定ができるようになってきている姿を嬉しく思う場面もある。また、昨年度の保護者アンケートで、「先生が、人から聞いた我が子の姿ではなく、先生自身の目を見た我が子のことを話してくださり、涙が止まらないほど嬉しかった。」という声も聞かせていただいたこともあった。

今後も児童の姿を丁寧に見つめ、保護者や地域の方々の声を聞き、一人一人に寄り添う指導・支援、安全・安心な環境づくりを続けていきたい。

（2）今後の課題と対策

- ・児童自身が自分の心身の状態に気付いたり、担任が児童のちょっとした変化に気付いたりすることが早期発見の第一歩になることが多いが、児童自身が自覚していなかったり、担任も必ずしも気付くとは限らなかったりする。そこで、岐阜市が本年度、各小中学校に導入を計画している「心の天気（自分の心の状態を天気に例えて毎日タブレットで報告するシステム）」を活用して早期発見・早期支援に努める。
- ・運動のパフォーマンスが心の状態に大きく左右されるのと同様に、コロナ感染防止や熱中症による危険回避のため、思い切り体を動かして群れて遊ぶ運動の機会が激減している現状は、運動能力の低下ばかりか、児童の心にも望ましくない影響を及ぼしていると考えられる。日本スポーツ協会が推奨している「アクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）」なども取り入れ、仲間と楽しく体を動かすことで心も健康にする試みを行う。
- ・いじめや不登校は、誰にでもどの学校でも起こり得る。未然防止や早期対応・早期解決は無論大切だが、もし自分の身に起きたときに、自分でそれを乗り越えていくレジリエンスの力を付ける指導も必要である。日頃から怖れず挑戦し、失敗しても気持ちを切り替えるたくましさ・しなやかさを育てたい。そのため、体験的活動を充実させ、道徳教育とも関わらせながら、失敗を次に生かす指導を大切にしていく。
- ・「チーム学校」として、校内外の様々な人が児童の健全育成に携わるようになった。人が多くなると、多様な考えにより新しい発想が生まれやすくなる半面、情報共有が図りづらくなったり、認識の齟齬が生じやすくなったりする。今後も、学校、家庭、地域、関係機関などで課題を十分情報共有し、方向性を明確にして協働できる体制を築いていく。